

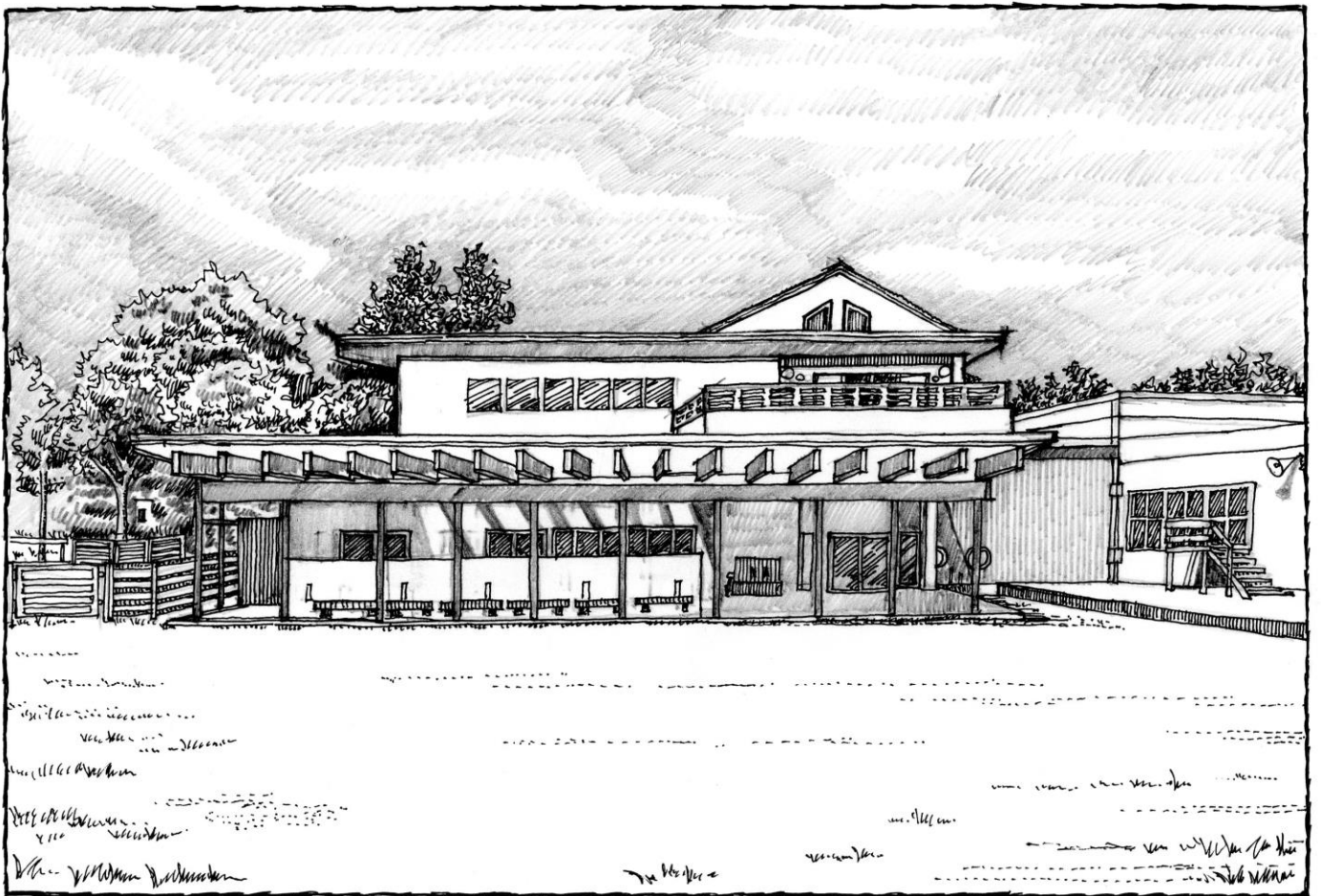
あなたと教区を結び

2020年12月20日発行

北海道通信

No. 212

アポイ号



キリスト
日本基督教団 北海道区

もくじ



表紙の幼稚園 …1

学校法人 千歳栄光学園 認定こども園 千歳第2幼稚園



みことばに聴く「私たち待つわ」 すぎもと かずみち 杉本 和道 牧師（真駒内教会）…2



特集「道北地区のオンラインを活用した宣教の取り組みについて」…4



幹事室より …8



常置委員会報告 …10



各委員会から

革新部門委員会 …11

リレートーク CS えきでん「余市教会」、

共に生きる教会形成教区集会、全道教会中学高校生オンラインの集い、

「互いの礼拝を豊かに～北海教区いろんな礼拝ヒント集」発行のご案内

連帯部門委員会 …14

牧師就任式の喜び（渡島福島教会・江差伝道所、真駒内教会）

平和部門委員会 …16

「幌延の40年 そこから見えてくるもの」、鈴江英一さんを偲ぶ、

オンライン学習会「コロナと外国人住民」、部落差別問題学習会報告

アイヌ民族情報センター …21

「ラポロアイヌネイションサケ捕獲権確認訴訟始まる 先住権の闘い」

ハラスメント防止委員会 …22

「尊厳の回復を求めて！～旧優生保護法国家賠償裁判の判決はもうすぐ、お祈りください～」

こんにちは！性差別問題担当委員会です …23

エッセイ「大坂なおみさん7枚のマスクからのメッセージ」

日本軍「慰安婦」問題の解決を目指すプロジェクトチーム …24

「ベルリンの「平和の少女像」が、座り続けるために。」、

「吉元玉（キル・ウォルノク）ハルモニの CD を販売します。」、ナビ基金のお願い

芦別祈りの家管理委員会 …25

「芦別祈りの家クリスマスについてのご案内、芦別祈りの家の現在



地区報告 …26



Divan のミホミサン …30



クロスワードパズル …31



マンガ・編集後記 …32



広告 …33

211号に「コロナ禍での教区執行部の働き」を掲載する旨を書きましたが、その後「議長からの手紙」が刊行されました。そちらをご覧ください。 広報委員長 木村拓己

アポイ岳

北海道日高東部のまち「様似町」。アポイ岳は、標高わずか810mという低山でありながら、ヒダカソウをはじめ固有の高山植物が数多く見られることで知られています。日高山脈襟裳国定公園の中では登山道が整っており、身近に可憐な花々を見ることができ、多くの登山者で賑わっています。

（日高町 HP より）



表紙の幼稚園

学校法人千歳栄光学園 認定こども園

千歳第2幼稚園

千歳市新富1丁目6-21



当園は千歳市最初の幼児教育施設「千歳幼稚園」の姉妹園として1964年に創立されました。

今から68年前の千歳は、朝鮮戦争の只中、米軍の駐留に伴い「ソドムとゴモラの町」と称される程大変すさんだ状態でした。そのような中一人のクリスチャンが「このままでは子どもたちの心の成長が心配だ。そのためには教育が必要だ」と考え教会と共に幼児教育施設が備えられました。

当園は、1981年に新園舎建築がおこなわれ、その後、2016年には木をふんだんに使った光溢れる園舎を増設し、0歳から5歳までの連続し一貫した保育・教育をおこなう幼保連携型認定こども園に移行しました。現在、0歳から5歳までの園児153人が在籍し保育従事者は41人、20代から60代までの幅広い年齢層の保育者が保育にあたっています。

学園の基本理念は、「共に生きる」です。0・1・2歳は家庭と同じようにゆったりとした環境と生活を大切にし、グループ毎に担当制保育を実施し丁寧な関わりを心がけています。また、3・4・5歳は縦割りのクラス編成を行い「自遊共育」（自ら遊び共に育つ）を大切にし、保育者をも含めた多様な人間関係の中で育つ「共育」=「教育」をおこなっています。

人は、生まれたときから一人では生きていけない存在です。特に幼い時はご家族に見守られ育まれ、人とのかかわりの中で成長します。神さまか

- らいただいたかけがえのない「いのち」は、ひとりひとり他に譲ることが出来ないものです。こどもたちには、自分だけではなく他の人にもそのような「いのち」があることを知り、幼稚園や家族という枠を超えてまだ出会ったことのない他の人と共に生きることを大切にしてほしいと願っています。

- 見えるものだけではなく、見えないものに目を注ぎ、祈りを通して目に見えない「神の愛、恵み、赦し」に感謝しこれからも地域に開かれたこども園として、神さまの愛を伝え続けていきたいと思

- 2018年9月6日午前3時7分、最大震度7を観測した胆振東部地震が occurred。暗闇の中での大きな揺れとその後限りなく続く余震は、不安と恐怖の連続でした。震源地に一番近い場所にある当園ですが人的被害はありませんでした。しかし、建物天井裏を通っているガス管が壊れ、ガス漏れや電気系統の故障、複数の壁の亀裂、玄関タイルの損傷などが見つかりました。

- その際には、全国の方から寄せられた胆振東部地震義援金をいただき早急に修繕をすることができました事を心より感謝いたします。

まどか
(園長 中野 円)

クリスマスページェントの様子



みことばに聴く

「私たち待つわ」

すぎもと かずみち
杉本 和道 牧師（真駒内教会）

「こうして、全部合わせると、アブラハムからダビデまで十四代、ダビデからバビロンへの移住まで十四代、バビロンへ移されてからキリストまでが十四代である。」（マタイによる福音書1章17節）

「グロ～オ～～オ～～オ～～リア！」

お隣の幼稚園からページェントの練習の歌声が聞こえてきます。果たしてページェントを行えるのか？11月に入り真駒内教会のある札幌市では、新型コロナウイルス感染症の急拡大が起り不安が黒雲の様に重く垂れこめています。折しも初雪が降り北海道の冬を初めて経験した長男が、「朝なのに夜みたいに暗いね」と驚きの声を聞かせてくれました。

この春から経験してきた、ウイルスによる感染症という見えないことへの恐れ、いつまで続くのかという不安、礼拝を皆で一緒に捧げることのできない寂しさなどなど、また黒雲の下の様な状況で待ち続けるのかと考えると心が折れそうになります。

かつてページェントを体験した私には思い出深い曲があります。『神さまからのお約束』というページェントの冒頭で歌われることの多い曲です。1節ではこう歌われます。

**昔 ユダヤの人々は
神様からの お約束
尊い方の お生まれを
嬉しく待って ありました。**

色と音、光に溢れる華やかなクリスマスを待つ楽しみを感じつつ歌ったのを覚えています。

次いで2節、

**尊い方の お生まれを
みんなで楽しく 祝おうと
その日数えて 待つうちに
何百年も 経ちました。**

華やかさが一転、望みつつもそれが叶わない…。長い時を「待つ」という暗さを感じました。

上記聖書箇所は、マタイによる福音書冒頭の系図の最後に書かれ、その後のイエスの誕生物語と系図をつないでいます。《十四代》という数は、「ダビデの子を示している」「ヨベルの年を暗示している」など様々な解釈がなされていますが、十四代、十四代、十四代との繰り返しからは長い時の流れを感じます。その間に、いったいどれだけの人が神の救いを待ち望みつつ暗く重たい日々を過ごしたのでしょうか。

思い返せば四月、北海道真駒内の地に赴任してすぐ北海道・札幌市緊急共同宣言が出され、教会での礼拝も検討に検討を重ねた結果在宅礼拝となりました。教会の対応に追われながら、心傷んだのは家族のことでした。

我が家の子どもたちは、新しい小学校・幼稚



園に通い始めて一週間も経たずに休校・休園となりました。我が子が、「友だちもできない。岐阜に帰りたい」とその辛さを涙ながらに訴えてきた時には、言葉が出ず、「コロナ禍が収束し、学校が再開されれば必ず友だちはできるよ。お父さんはそう信じているよ」との思いを込めて、ただただ抱きしめることしかできませんでした。

「待つ」ことは、時として辛く厳しいものです。とりわけ見通しが立たない状況で、いつとも分からない「その時」を待つことは、私たちの心をすり減らします。

もしかすると、この文章が皆さんの手元に届く頃には、いよいよコロナ禍は厳しさを増し、クリスマス教会で祝えないかもしれません。数えても数えきれない様な「待つ」日々が私たちに覆っているかもしれません。

それでも私はお伝えしたい。私が北海道に来て経験した「待つ」は、決して暗闇で終わるものではなく、暗闇の様な「待つ」中でこそ輝く光があるということ。

9月27日(日)真駒内教会は、長く延期していた就任式を感染防止のため、式を主日礼拝内で行い、それをオンラインで中継する方法で行いました。従来とは異なりますし、決して完璧ではありませんが、北海教区が大切にしてきた連帯を諦めずに新しく挑戦してみようとの思いを形にできたと思います。

当日には、普段お会いできない他地区の方とも礼拝を共に捧げることができました。病のため

に普段の礼拝に出席できずにいた教会員の方もオンラインで参加できました。前任地の教会の方々と現任地の教会の方々が互いに顔を合わせて就任の時を過ごせました。コロナ禍が消えてなくなったわけではありません。それでも、真駒内教会がいただいた恵みは、「待つ」を過ごしたから見つけることのできた恵みでした。

クリスマスを祝う私たちは、神の救いの歴史の中で、クリスマスへ至るまでにあつた長い「待つ」を覚えてつづも、すでに私たちがキリストと共になる「待つ」という恵みの中を生きていることを握りしめていきたいと思うのです。

『神さまからの約束』は3節でこう歌います。

**ある日天の 御使いは
喜びなさい神の子が
みんなのために お生まれと
高いお空で 告げました**



『あら野のはてに』も「グロリア」に続いてこう歌います。「イン エクセル シス デオ (いと高きところに神の栄光あれ)」と。垂れこめる黒雲のはるか上、「高いお空」「いと高きところに」には、晴れ渡る青空がいついかなる時にも存在しています。地上からは見えなくても青空は変わらず在り続ける様に、コロナ禍に希望はないのではなく、覆う黒雲さえ包み込んで常にあるのです。

その希望の名は「インマヌエル」、神は我々と共におられる。キリストと共にクリスマスを待ちましょう。

[教会案内] 札幌地区 真駒内教会

主日礼拝 午前 10 時 30 分～ 11 時 15 分 (コロナ禍のため短縮中)
最寄駅 地下鉄東西線ひばりが丘駅地下鉄南北線真駒内駅下車 徒歩約 8 分
市営バス 泉町中央停留所下車 徒歩約 1 分

現在礼拝は感染拡大を防ぐため、讃美歌は歌わず奏楽に耳を傾け、
主の祈り、信仰告白、交読詩編は司式者が代表して唱和しています。



道北地区のオンラインを活用した 宣教の取り組みについて



道北地区委員長 いとうひろみち 伊藤大道（興部伝道所）

【はじめに】

新型コロナウイルス感染症が教会のみならず社会にも大きな影響を及ぼし、北海教区でもまた道北地区でも 2020 年度に予定していた活動がほとんど行えない状況になりました。そのような中、道北地区ではオンラインによる牧師会を数回開催し、この状況に対応した新たな宣教活動の在り方について検討しました。具体的には、オンラインを活用して地区内の諸教会・伝道所・センターをつなぎ、合同礼拝をまず行おうということになりました。

道北地区では毎年 7 月に「道北デー」と題して、交換講壇礼拝をおこなっています。今年度はそれが実施できないので、代わりにオンラインで全教会をつないだ形での合同礼拝を開催しました。初めての試みであり、そのため多少のトラブルはあったものの、一緒に礼拝を守ることができ、また、各教会の様子などもうかがえて非常に意義あるものとなりました。

その後、旭川伝道圏主催による「旭川 8.15 平和祈禱会、同じく旭川伝道圏の「美馬牛福音伝道所オンライン合同礼拝」を、さらに「第 2 回道北地区委員会」もオンラインによって開催しました。

また、オンラインによる配信は、教会に来られず、ご自宅で礼拝を守っている方にも届けられ、場所は離れていても共に礼拝を守る喜びを分かち合うことができました。

最後に、各オンライン集会の概要を掲載します。

○道北地区「道北デーオンライン合同礼拝」

7 月 12 日（日） 参加者 178 名

○旭川伝道圏「旭川 8.15 平和祈禱会」

8 月 14 日（金） 参加者 27 名

○旭川伝道圏「美馬牛福音伝道所オンライン合同礼拝」

8 月 23 日（日） 参加者 最低でも 99 名

次に、オンラインによる取り組みをする中で、どのような準備が必要であったか、また、問題点についてご報告します。今後、同様の取り組みを検討されている地区や教会で参考になればと願います。

【事前の準備について】

○機材の購入

オンラインの中継を大勢の方に見てもらうためには、プロジェクタとスクリーンが必要です。道北地区の教会の中には、それらを所有していないところもあり、また価格も高額だったために、地区委員会で協議して、今年度コロナ禍にあって地区活動が行えなかったことによって執行されなくなった予算を用いて、地区が購入し、貸与するという方法が取られました。

また、インターネットに接続できない教会もあったので、そうした教会は Wi-Fi 設備をレンタルしました。

○機器の調整

まず、インターネットの接続をしっかりと確認する必要があります。特に Wi-Fi の場合、電波が届かなかったり、届きにくいという事態も考えられるので、事前にチェックをしておいた方がいいでしょう。ちなみに、興部伝道所では、礼拝堂にパソコンを設置すると Wi-Fi の電波が届きにくく、接続しづらくなって画像が途切れ途切れになりました。そこで、有線をつなぐことで問題を解決できました。

また、音響設備もを整える必要がある場合もあります。礼拝堂が広い教会の場合、音が届きにくかったり、高齢者の方が音を聞き取りにくかったりということがあるので、その点も予め確認しておく必要があります。

【オンラインを使用する際の課題】

時間について

通常の対面による礼拝とは異なり、スクリーンに映る画像を見つつ音声にも耳を傾けなければなりません。

特に高齢の方の場合、時間が長くなると疲れを覚えます。その点について、特に配慮が必要と思われます。

参加者について

今回は、道北地区と旭川伝道圏の主催で3つの行事を開催しましたが、今後同様の活動を行うとき、それに参加される方をどこまで広げるのかということも考えなければなりません。

例えば、教会に集まるのではなく、各ご家庭からの参加をすべて認めるのか、あるいは道北地区以外の地区や教会に参加を呼び掛けるのかどうかといった点です。

双方向性

オンラインは画面越しにはありますが互いに顔を見合わせながら会話ができます。

しかし、それにも限界があり、実際に対面しながらの会議や集まりと比べると双方向のコミュニケーションがとりにくい部分もあります。

やはり、実際に顔と顔を合わせた場合に比べると、場の空気などが感じられにくいという点もあります。

【まとめ】

今回、新型コロナウイルス感染症の事態を受けてオンラインへの取り組みを行うことになりました。ただ、道北地区の考えとしてコロナのことがあるから仕方なくオンラインを活用したわけではありません。実際、数年前から、広い地域に教会が点在する道北地区の状況から、会議や合同礼拝をオンラインで開催できないかということが検討されてきました。たとえ、コロナの状況がなかったとしても、それぞれの教会はだんだんと厳しい状況に立たされています。そういう中で、新しい宣教の形を模索する一環としてオンラインを活用しています。コロナのことはその試みを前進させるきっかけとなったともいえるのです。

普段はインターネットの環境にない方に対して、オンライン以外でどのようにつながっていくかも考えていかなければなりません。大切なことは、オンラインに頼り切るのではなく、それも一つの手段として用いながら、教会同士、そしてそこに連なる一人ひとりが孤立せず、つながりを実感できるようにすることなのだと思えます。

オンラインによる新しい宣教の試みは始まったばかりです。その利点を大いに生かしつつ、オンラインの活用がこれからの北海教区の働きをさらに豊かにしていくことを願います。



道北デー
美馬牛福音伝道所の風景
オンライン合同礼拝





【オンライン合同礼拝のスピーチと感想】



次に、オンライン合同礼拝にゲスト参加された方のスピーチと感想を掲載します。8月23日(日)に行われた「美馬牛福音伝道所オンライン合同礼拝」には多数の方が参加してくださいました。

その中から、美馬牛福音伝道所にゆかりのある西岡昌一郎先生(にしおかしょういちろう・千葉教会牧師・元旭川六条教会牧師)と山本光一先生(やまもとこういち・京葉中部教会牧師・元北海教区幹事)のゲストスピーチをまとめたものと、信徒の方お二人、信徒の安河内真樹さん(やすこうちまき・余市教会)と米川志んさん(よねかわしん・旭川星光伝道所)の感想を掲載しました。

○ ゲストスピーチ ○

山本光一牧師

(京葉中部教会・元北海教区幹事)

私が8年間北海教区幹事をしてきた時の一番の思い出は、芦別教会のことについてです。芦別教会の土地取得に関する書類を作るため、責任役員会の議事録を作成することになりました。そのため、芦別教会に最後まで残られた方のお一人に教区事務所に来ていただきました。その方は「気が付いたら教会員が3人しかいなくなっていた。」と言われ、涙を流しながら「教会をなくしてしまって申し訳ありません」と私にお詫びを言われました。本来ならば、こちらがお詫びを言わなければならない立場です。私は北海教区の一つの教会が倒れる時は、教区のすべての教会が倒れる時だという気概をもって教区形成をしてきたつもりです。しかし、その方の言葉から、教会を守るということについて、これほど真剣になっているのかということを感じさせられました。

同じことは、美馬牛福音伝道所の方々にも感じられます。道北地区で美馬牛福音伝道所宣教協力委員会が発足し、渡部伸哉さんの訴えがあり、2009年に献堂式が行われましたが、その過程の中でも信徒の方の強い思いを感じました。

北海教区には「謝儀保障費制度」が確立していますが、これはとても必要な体制だと思います。今、私のいる千葉支区には18の教会がありますが、その内の3つが日曜日に礼拝出席者がだれもないという状態です。それなのに、千葉支区ではそれに対して何も対応していません。小さな教会がなくなるのを黙ってみているだけです。だからこそ、北海教区の謝儀保障費制度はぜひとも堅持していただきたいと思います。

また、私のいる京葉中部教会では会堂建築をしています。それが終わったら隠退教師として北海道に戻るつもりです。その時にはどうぞよろしくお願います。

(文責：伊藤大道)

西岡昌一郎牧師

(千葉教会・元旭川六条教会牧師)

美馬牛福音伝道所について語るうえで、欠かすことができないのが、この合同礼拝の歴史です。今から20年前、2000年当時、古い会堂は老朽化してきていることをその年の道北地区集会で信徒の渡部伸哉さんが訴えられました。それを受けて、美馬牛福音伝道所で年に一度集まって合同礼拝をささげ、そのあとジンギスカンを食べることになったのです。こうして古い礼拝堂に道北地区のみんなが身を置きながら、この現状は大変なので何かできないかと考え始めたのが会堂建築に至るきっかけでした。

しかし、会堂建築自体はその時はまだ夢物語でした。実際、美馬牛福音伝道所宣教協力委員会で新会堂について話し合っているとき、委員長長の三浦忠雄先生に私が会堂建築資金はどれくらいたまっているのかと尋ねると「まだ何もたまっていません」という答えを聞いてずっこけそうになったことを覚えています。

それでも、結果としてそれから5年くらいして新会堂の建築が実現するのですが、それは道北地区の皆様が古い会堂に身を置き、合同礼拝をささげ、おいしいジンギスカンを食べる中で、交わりを深めていったことが大きな原動力になったのだと思います。具体的に顔と顔を合わせ、共に思いを合わせることで、そこに神様の御業が働いたのだと思います。一人ひとりの小さな力を神様が用いてこの会堂建築につながったのです。

今、私は東京教区千葉支区にいますが、千葉でも小さな教会はたくさんあり、悪戦苦闘したうえで力尽きてしまうということが起こっています。本当ならばそうなる前に、周辺の教会と連携していかなければならなかったと思います。教団の教会は全国に広がっています。その中で、大きな課題を抱えて苦勞している教会を放置するのではなく、連携し、支え合う環境を作らなければならないと思います。そ

うやあって互いの教会の賜物の豊かさを分かち合い、つながって支え合う中で主から委託された宣教の使命に応えられる教会になるのだと思います。

パウロは「働きにはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ主です」と語りました。その御言葉を思いながら、私たちは連携し、つながりあうことを大事にしていく必要があるのです。

(文責：伊藤大道)



○ 美馬牛福音伝道所オンライン合同礼拝に参加して ○

安河内真樹さん(余市教会)

私は後志地区に住んで17年。この間小樽聖十字教会と余市教会に籍を置き信仰生活を送ってきました。知り合う信仰の友もこの地区の方々でしたが、これが当たり前だと思っていました。

ところが、今回新型コロナウイルス感染症のおかげでオンライン礼拝が企画され、後志地区以外の信仰の友の顔を見て共に礼拝を捧げることが出来、広い北海道の中で地上の距離に関係無く集うことが許されました。なんという恵みでしょう！

時代は日々進化しています。文明も進み、昨日でできなかったことが今日は叶う時代です。全てが有益なものばかりではないでしょうが、一粒の麦が地上に落ちなければ現すことができなかつた大きな恵みの意味を私たちは知っていますし、そして時には立ち止まり見えないものの中から真理を見つけ出す知恵も神様により私たちは教えられています。

コロナウイルスによって与えられた新しい出会いの形に心から感謝しつつ、また機会がありましたらオンライン礼拝に参加したいと思います。

米川志んさん(旭川星光伝道所)

私と妹は、気管支喘息の持病があり、コロナの感染予防のため自粛生活を続けています。そのため、教会での礼拝を守ることができなくなり、祈り求めていたところ、はじめは教会員の方のスマホのLINEで礼拝を守ることができましたが、画面が小さく聞き取りづらかつたこともあり先生の取り計らいで教会のパソコンを利用することになりました。操作に慣れないため義弟の力も借り今はオンラインで礼拝を守っております。(そこで、わたしは言うておく。求めなさい。そうすれば与えられる。ルカによる福音書11章9節)

道北地区は各教会が広範囲に点在しているうえ、毎年行われている各集会もコロナ禍で取り止めになりました。そのため先生方は、オンラインで教会や信徒間のつながりをもつことができるよう対応してくださり、祈りを合わせる機会を持つことができました。興部教会では教会内が映し出され礼拝の様子を見ながら伊藤先生のお話をお聞きしました。美馬牛福音伝道所では教会員の皆さんの様子も見られ、懐かしい4人の先生方のお話もお聞きすることができました。こうしてオンライン礼拝でたくさんの恵みと喜びをいただき感謝しております。



旭川市内3教会合同オンラインCSキャンプの様子



道北デーオンライン合同礼拝 和寒伝道所の風景

幹事室より

北海教区幹事 小西陽祐



■教会の動向

◎小樽聖十字教会

8月9日付で「日本基督教団との被包括関係廃止」(教団離脱)の通知を教団へ提出し、日本基督教団から離脱されました。

■2020年度常置委員会日程

現在、新型コロナウイルスの影響により、常置委員会をオンラインにて月に一度のペースで開催しています。直近では12月15日(火)に開催されました。次回は1月に開催される予定です。

委員会議事録や報告書、各種の承認申請書は、資料準備の都合がありますので、常置委員会の1週間前までを目処にご提出ください。

■各種 袋献金のお願い■

北海教区の皆様、新型コロナウイルス感染症の影響により、大変なご苦勞をされていらっしゃると思います。しかし、このような時だからこそ、改めて袋献金の本来の趣旨を思い出したいと祈ります。ぜひ、「今回のような非常時においては、社会の中で弱い立場に立たされている人たちは、さらに苦しい状況へと追いやられてしまう」ということを共に覚えたいのです。お献げくださった献金は、北海教区の様々な働きのために大切に用いられます。どうぞ、祈りつつ、お献げくださいますようお願い申し上げます。

アイヌ民族権利回復活動献金	7月	芦別祈りの家維持献金	7月
センター・ホレンコ献金	7月	日韓宣教協力献金	8月
共に生きる教会形成推進献金	9月	性差別をなくす運動推進献金	10月
部落差別をなくす運動推進献金	11月	年頭初穂献金	1月
靖国神社問題活動献金	2月	洞爺湖教会宣教協力献金	通年
東日本大震災支援献金	通年		

■渡島福島教会 問安

11月4日に渡島福島教会を訪問しました。皆さんが、暖かく出迎えてくださいました。幼稚園を運営し、地域の子もたちの数が減る中であつてもキリスト教の土台に立ち子どもたちの今に寄り添う保育を志しておられることや地域への宣教の働きを担う中での苦勞や喜びもお聞きすることができました。日帰り、札幌から往復750kmの道のりでしたが、厚別教会の石田歩牧師も同行してくださり、新しい出会いの 때가備えられたことに感謝です。



■互いに大変な時だからこそ ～小規模教会からの声～

先日初めて宣教協議会に参加することができ、コロナの為に大きく変化した状況について他地区の取り組みや苦悩されている様子を聴きあう時間となりました。その中でも札幌北光教会の切迫した財政状況を伺い「助けてください」との言葉を聴きました。

わたし達は教区の謝儀保障がなくてはやっていけない本当に小さな伝道所です。コロナの被害は教会員や家族にも大きな影響があります。しかし今のところ会計上にその被害が出ていません。礼拝に来られなくなった方々は「これしかできないから」と献金を献げています。またコロナの為に主の食卓やフリーマーケット（年数回のものが1回に縮小）、遠足などあらゆる行事がなくなったことで支出が減っているということもあります。

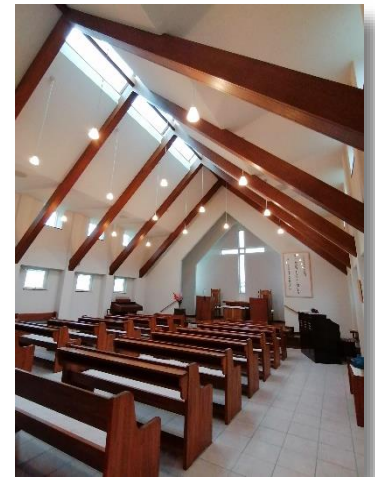
けれども、こんな時だからこそ長年私たちを支え、祈ってくださって来た大規模教会や甚大な被害を受けた北海道クリスチャンセンターなど、今この状況で大変な思いをされているところへ、今度是我達（わたし達）が祈り、支えたいという思いを強くし、ささやかながら献金をしています。そしてそれを継続していきたいと思っています。小さな献金も主が豊かに祝福してくださることを信じて!!

（旭川星光伝道所 難波泉）

■道南地区への教区三役問安と「瀬棚 三愛塾」



10月10日～11日、「教区三役問安」として、原和人議長と齋藤開書記が道南地区の教会・伝道所・センターを問安しました。幹事も同行し、一日目は、せたな町の三愛畜産センター(左上)、利別教会(左中)、八雲教会(右)、二日目はそれぞれ七飯教会、函館教会、函館千歳教会の礼拝に出席し、午後



から江差伝道所・渡島福島教会の牧師就任式に出席しました。

今回の問安を通して、それぞれの教会の課題や思いの一端に触れることができたことは「連帯」をつくりだすための大きな恵みであったと思います。

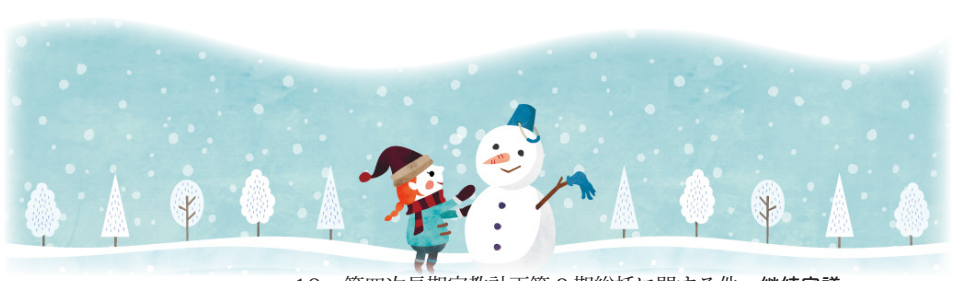
牛の写真(左下)は三愛畜産センターの生出さんの牧場で飼われている牛です。牧草地に入り間近で見せていただきました



11月16日には三愛畜産センターにて「瀬棚 三愛塾」が開催され、杉本和道牧師(真駒内)、西岡知洋牧師(余市)のお二人に声をかけ一緒に参加してきました。今回は名寄教会員の五十嵐広司さん、五十嵐紀子さんが酪農を軸に農業、果樹、畑作、加工などを立体的に経営する「立体農業」の実践についてお話をしてくださいました。五十嵐さんが「立体農業は儲ける農業ではなく、太る農業だ」と言われた言葉が印象的です。北海教区も教会、幼稚園、学校、センターなど多岐に渡る働きを担っています。それぞれの働きの豊かさがより立体的に関われるような北海教区を目指していきたいです。



常置委員会報告



2020年度 第2回常置委員会（抄）

日時 2020年7月30日（木）15:00～18:35

場所 ZOOM（オンライン）

出席 原和人（議長・手稲はこぶね、札幌富丘）、ト部康之（副議長・千歳栄光）、齋藤開（書記・美馬牛福音、旭川星光）、柴田もゆる（函館千歳）、ディヴァン・スクルマン（台湾基督長老教会宣教師）、木村拓己（美唄）、伊藤大道（興部）、島田久美子（月寒）、佐久間光昭（置戸）、小関優（新得）、藤巻朋子（札幌元町）
陪席 小西陽祐（教区幹事）

審議事項

1. 前回常置委員会議事録承認に関する件 可決
2. 札幌教会との関係回復に関する件 継続審議
3. 第80回北海教区定期総会付託事項に関する件 継続審議
(1)第81回定期総会開催場所並びに日程に関する件
(2)第80回定期総会議事録承認に関する件 可決
4. 新型コロナウイルス感染症に伴う各教会・伝道所への対応に関する件 継続審議
5. 信濃町教会諸教会連帯資金「宣教活動協力資金」申請に関する件 継続審議
6. 2021年度教団伝道資金申請に関する件 継続審議
7. 台湾宣教師任期継続に関する件 継続審議
ディヴァン宣教師の任期継続と15年間の働きの総括について
8. 札幌教会米倉美佐男教師主任担任教師辞任承認申請に関する件 可決
9. 渡島福島教会謝儀保障申請に関する件 可決
10. 手宮教会「宗教法人日本基督教団手宮教会」規則変更に関する件 可決
11. 芦別祈りの家に関する件 継続審議
12. 教師の「辞任・就任」パンフレット改定に関する件 継続審議
13. 第四次長期宣教計画第2期総括に関する件 継続審議
14. 月寒教会の宗教法人法第23条及び教会規則第27条による申請の承認に関する件 可決

2020年度 第3回常置委員会（抄）

日時 2020年8月25日（火）15:00～18:38

場所 ZOOM（オンライン）

出席 原和人（議長・手稲はこぶね、札幌富丘）、ト部康之（副議長・千歳栄光）、齋藤開（書記・美馬牛福音、旭川星光）、柴田もゆる（函館千歳）、ディヴァン・スクルマン（台湾基督長老教会宣教師）、木村拓己（美唄）、島田久美子（月寒）、佐久間光昭（置戸）、小関優（新得）、藤巻朋子（札幌元町）

欠席 伊藤大道（興部）

陪席 小西陽祐（教区幹事）、韓守賢（宣教部委員長）

審議事項

1. 前回常置委員会議事録承認に関する件 可決
2. 札幌教会との関係回復に関する件 継続審議
3. 第80回北海教区定期総会付託事項に関する件 継続審議
(1)第81回定期総会開催場所並びに日程に関する件
4. 新型コロナウイルス感染症に伴う各教会・伝道所への対応に関する件 継続審議
5. 信濃町教会諸教会連帯資金「宣教活動協力資金」申請に関する件 可決
6. 2021年度教団伝道資金申請に関する件 継続審議
7. 台湾宣教師任期継続に関する件 可決
ディヴァン・スクルマン宣教師活動総括小委員会の設置
久世そらち、松島直子、齋藤麻実、三浦忠雄、ディヴァン・スクルマン
8. 芦別祈りの家に関する件 継続審議
9. 教師の「辞任・就任」パンフレット改定に関する件 継続審議

10. 第四次長期宣教計画第2期総括に関する件 継続審議

11. その他 可決・意見交換

- ・オンラインプロジェクトチーム設置 可決
- ・小樽聖十字教会の日本基督教団との被包括関係解消

2020年度 第4回常置委員会（抄）

日時 2020年10月1日（木）15:08～18:30

場所 ZOOM（オンライン）

出席 原和人（議長・手稲はこぶね、札幌富丘）、ト部康之（副議長・千歳栄光）、齋藤開（書記・美馬牛福音、旭川星光）、柴田もゆる（函館千歳）、ディヴァン・スクルマン（台湾基督長老教会宣教師）、木村拓己（美唄）、伊藤大道（興部）、佐久間光昭（置戸）、小関優（新得）、藤巻朋子（札幌元町）

陪席 小西陽祐（教区幹事）、韓守賢（宣教部委員長）

今多正行（財務部委員長） 欠席 島田久美子（月寒）

審議事項

1. 前回常置委員会議事録承認に関する件 可決
2. 札幌教会との関係回復に関する件 継続審議
3. 第80回北海教区定期総会付託事項に関する件 継続審議
(1)第81回定期総会開催場所並びに日程に関する件
(2)第80回定期総会議事録承認に関する件 可決
4. 新型コロナウイルス感染症に伴う各教会・伝道所への対応に関する件 継続審議
5. 北海教区臨時総会開催に関する件 可決
①2020年度教区歳入歳出補正予算案を提案する。
②開催日程について審議（議決権行使書等）
6. 2020年度宣教協議会開催に関する件 継続審議
オンラインで宣教協議会を2回開催する。（11月、2月）
7. 2021年度教団伝道資金申請に関する件 可決
8. 芦別祈りの家に関する件 継続審議
9. 教師の「辞任・就任」パンフレット改定に関する件 継続審議
10. 第四次長期宣教計画第2期総括に関する件 継続審議
11. 手宮教会小西陽祐主任担任教師代務者辞任承認申請に関する件 可決
12. 手宮教会平宏史主任担任教師代務者決定承認申請に関する件 可決
13. 札幌教会米倉美佐男主任担任教師代務者決定承認申請に関する件 可決
14. 月寒教会の宗教法人法第23条及び教会規則第27条による申請（教会土地担保提供）に関する件 可決

2020年度北海教区臨時総会報告

10月14日（水）～11月10日（火）第5回常置委員会を日程として、北海教区臨時総会を開催しました。第80回北海教区定期総会と同様に、議決権行使書を用いての開催となりました。

この臨時総会は、各教会・伝道所の負担金（教区運営資金）の一律10%の減額、それに伴う各部・各委員会の支出削減、北海道クリスチャンセンターへの支援を中心とした補正予算を提案したものです。

11月10日、第5回常置委員会は、提出された議決権行使書97名をもって総会が成立し、議案第1号「教区歳入歳出補正予算案（付；負担金配分）に関する件」が賛成94名、反対3名によって可決したことを確認しました。

補正予算案に対して反対意見もありましたが、それらを考慮しつつコロナ禍における今後の北海教区のあり方を共に考えていきたいと思っております。（報告：齋藤開）

CS えきでん 余市教会



「教会学校ってどんなところ？」と子どもたちに聞いてみました。「礼拝するところ」、「たのしい!」、「(礼拝堂が)大きい!」でも、わたしのお家のおふろの方が大きいわ。子どもたちは毎週日曜日を楽しみにして集まってくださっています。

共に歩んでいるリタ幼稚園からつながって、日曜日もお友達と遊んだり、卒園してから久しぶりのおいのりや、さんびかを喜んだり、ちょっとした同窓会気分のような感じです。お家の方も協力してくださり、感謝です。ある日、手作りの献金袋を持ってきてくださったこともありました(牧師の顔写真入り!)。お誕生会のゲームも子どもも大人も大盛り上がりです。

幼稚園の先生たちも奏楽や活動をサポートしてくださってとてもうれしいです。キリスト教を前向きに受け止めてくださり教会での体験を保育に生かそうとしておられる志に心が動かされます。



秋には園庭で焼き芋を焼いて食べました!

● 余市教会は「日曜日のいつの時間に来ても子どもたちに居場所があるように」との願いを持っています。礼拝が「待たされる時間」ではなくて、子どもたちやお家の方にとって「安心できたり、うれしい時間」であるために、9時からの教会学校はもちろん10時半からの礼拝の中で子どもたちの祝福の時間を守っています。

● 今は、新型コロナウイルスの影響で子どもも大人も一堂に集まった祝福ができず残念ですが、子どもたちをおぼえてのおいのりは欠かさずに続けています。

● 同時に、子どもたちがこの世界で平和に生きるために愛されて生きるために、大人と呼ばれる一人ひとりの力が必要とされていることを礼拝の中で確認しています。

● ここに余市教会が志す子どもも大人も共に歩む教会形成があります。



● 礼拝のお話で爆笑しています。楽しく過ごせるように工夫しています。

共に生きる教会形成教区集会

2年に一度行われている「共に生きる教会形成教区集会」が2020年度に開催される予定でした。革新部門委員会では2020年10月24日(土)の午前と午後の時間を使って、北海道クリスチャンセンターを会場に開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大によって、残念ながら、今回は開催を中止にせざるを得ませんでした。

革新部門委員会での話し合いの中で、実行委員会を開催した時に話し合った内容を「北海教区通信」に掲載することで、「共に生きる教会形成教区集会」に代わる内容を掲載することにしました。

今回は、みなさんがひとつの会場に集まって、集会をすることはできませんでしたが、誌面を通して、共に生きる教会形成について一緒に考えていただけたら幸いです。

革新部門委員会委員長 藤巻朋子(札幌元町教会)

「弱さをとおして」

共に生きる教会形成グループリーダー
西間木公孝(新得教会)

共に生きる教会形成教区集会は新型コロナウイルスの影響で開催することができませんでした。当初、どうしていいのかわからず、悩み、考えました。悩んでも仕方がないのですが、悩みました。しかし、思ってもみない形で、共に生きる教会形成に関する、わかちあいの時が与えられ、感謝しています。ダメだと悲観していたのに、思わぬ形で実を結ぶことがあります。聖書に出てくる神の国とは、もしかしたら、わたしたちに「認知換え」という視点をあたえているのかもしれない。わたしたちの目から見たらダメだと思っていたことで、神さまの目からみたら、ダメじゃなくて、結構イケてるんじゃない、という見方です。本当に不思議です。

弱さは人と人をつなぐ手を持っています。弱さこそ、人間の本質です。弱さは最も大切な部分です。弱さを本当に大切にできるところこそが、教会ではないかと思えます。弱さを恵みとして生きるとき、わたしたちはこころから喜ぶことができます。それが福音です。

「どんな人も神の似姿」

手話通訳ボランティア 知野久子(厚別教会)

わたしは知野(ちの)と申します。北海教区では手話通訳ボランティアをしています。教区の集会でお会いしたことのある方も多いと思います。ふだんは、集会の時の手話通訳をしています。他に手話を学ぼうという方のお世話や聴覚に障がいのある方の相談に乗らせていただいています。手話を通して奉仕をさせていただいておりますと、いろいろなことに気づかされます。聴覚に障がいのある方が、本当に遠慮なさって、小さくなられていることがあります。みなさんはどれくらいそれに気づかれていますでしょうか。

以前、札幌地区の集会で黒田靖先生が説教をされました。その説教の中で「どんな人も神の似姿」という言葉を話された時、ろうあ当事者の方の顔が、ぱあっと明るくなりました。「どんな人も神の似姿」という言葉を通して、その方は希望を見出したようでした。またこれまでご自分のことを受け入れることができず、苦しんでこられたのに、この瞬間、自分を受け入れることができたようです。手話通訳をしていて、わたしもうれしくなりました。本当に感動しました。手話通訳を通して、このような恵みにあずかることができることは、ほんとうに喜びです。

革新部門便り **オンラインの集い** 企画を始めました！

コロナ禍で通常通りの「夏期キャンプ」「春の集い」が開催できず、道内の仲間たちが集まることのできない現在… みんなを繋げる一つの場となればと、ZOOMを使って顔を合わせる企画を準備中です。

- 全道中学高校生 オンラインの集い ● 全道青年 オンラインの集い (仮称)

世代別に2グループ、友達と誘い合って気軽に参加できる集いになればと願っています。実行委員会を編成し、内容を練るべく会議を重ねています。詳しい開催日程や参加方法等が決定しましたら、改めて教区より案内させていただきます。どうぞお楽しみに！

「共に生きる教会形成 私の思い」

共に生きる教会形成グループ委員 山根耕平（浦河教会）

共に生きる教会形成には、浦河教会からは主に精神障害を語る信徒が昔から関わってきました。始まりは約30年前にさかのぼります。当時、浦河日赤病院に入院中の早坂潔さんが、主治医の川村敏明先生から「入院していてもすることがないから、昆布でも売ってきたら」と言われて、日高地方の特産物である昆布を持って北海道クリスチャンセンターに行きました。その北海道クリスチャンセンターで、早坂潔さんは販売を試みましたが、順調に具合が悪くなり、販売コーナーの後ろで寝込んでしまいました。

ところがここで神様の奇跡が起こります。大量に売れ残った昆布を前にして、婦人会の方々が、「私たちが倒れてしまった早坂潔さんの代わりに昆布を売りましょう！」と昆布を売ってくれたのです。その結果、昆布は飛ぶように売れて、完売したそうです。

早坂潔さんが販売していた昆布が完売したように、私が昔から共に生きる教会形成に参加した時にはいつも教会の持つ暖かい雰囲気を感じていました。

コリントの信徒への手紙 一 12章22節「それどころか、体の中でほかよりも弱く見える部分が、かえって必要なのです」。同24節から26節「見栄えの良い部分には、そうする必要はありません。神は、見劣りのする部分をいっそう引き立たせて、体を組み立てられました。それで体に分裂が起こらず、各部分が互いに配慮し合っています。一つの部分が苦しめば、全ての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです」。

この聖書の箇所が、私が共に生きる教会形成に参加する度に、私の頭に幻聴さんとしてよみがえり、一人一人の人間の尊さを感じるのです。

「互いの礼拝を豊かに～北海教区いろんな礼拝ヒント集」

発行のご案内

共育（礼拝等）担当 藤吉求理子

革新部門便り

革新部門委員会では11月に「互いの礼拝を豊かに～北海教区いろんな礼拝ヒント集」を発行しました。

北海教区は、その歴史の中で「すべての教会が毎週礼拝を守る」ということが、難しい時期が多くありました。数年前には道北や道東地区で半数以上の教会が代務体制となり、主任担任教師を迎えることが厳しい状況が続きました。広大な地区では隣の教会が170キロという地理的状况の中で、礼拝応援を頼むことがしづらく、いくつかの教会では、信徒の一人一人が知恵とタラントを分かち合い、ユニークな方法で礼拝を守るようになっていきました。この資料集は、そのチャレンジの記録です。

第1章では賛美やインタビューなど、信徒が主にリードする礼拝を紹介しています。各教会で代務体制を経験する時や、牧師が体調不良で礼拝に参加できない時など、この資料集を用いてくだされば幸いです。また平時でも、教会員がお互いの日常や人生を知り合い、祈りを共にする機会となるのではないかと思います。第2章には映像を用いた礼拝などオリジナルな取り組みや、日曜日以外の特別な礼拝を掲載し、第3章では、各教会の代務体制の時の礼拝の持ち方をまとめて表にしています。各教会が代務者を迎え、礼拝担当のローテーションを考えるとときなどに、この報告を参考資料としてください。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、制限の多い日々が続いております。声を出して賛美することも、会堂に集うこともできない方々を思うと、心が痛みます。今回紹介した礼拝は、今の時期にはやりづら多いものが多いかもしれません。しかし、そこには代務体制という制限がある中でも「礼拝を守りたい」という熱い思いを見ることが出来ます。今、オンライン合同礼拝など新しい方法も各地で始まっています。私たちは一人ではありません。こんな時だからこそ、これまで以上に助け合い、知恵を出し、声を掛け合い、「礼拝の喜びに生きる神の民」として共に歩いていきましょう。



牧師就任式のよろこび

コロナ禍の中、お二人の先生方の就任式となりました。神様の祝福がありますように！

渡島福島教会・江差伝道所合同就任式の感謝

石橋香代子(渡島福島教会・江差伝道所 主任担任教師)

いつも渡島福島教会と江差伝道所を覚えて祈りお支えくださり心より感謝致します。

渡島福島教会は2年ぶり、江差伝道所は9年ぶりに主任担任教師を招聘することができました。その間、道南地区をはじめ北海教区の皆様には、お祈り・お支えいただき本当にありがとうございます。特に代務をしてくださった柴田もゆる先生(2018～20年福島)、藤崎裕之先生(2011～15江差)、送り出していただいた函館千歳教会と利別教会の皆様には心より感謝いたします。また、江差伝道所には地区・教区より多くの先生方に応援説教に来ていただきました。来てくださった先生方、送り出して下さった皆様には心より感謝いたします。

江差伝道所では教勢や経常収入は少しずつ上向きになっていきましたが、長い代務が続き、一教会で一人の牧師を招聘することはとても難しい状況でした。渡島福島教会では、2020年には牧師を招聘したいという目標を掲げていましたが、教勢や経常収入ではかなり厳しく、幼稚園園長としての収入を合わせても、一教会で一牧師を招聘するのは厳しい状況でした。以前から、二つの教会合同で一人の牧師を招聘する案があり、理想的に見えましたが、困難なこともありました。2教会の距離は80キロで、福島には幼稚園もあります。毎週2教会で礼拝し、幼稚園園長も務め、しかもどちらも田舎の教会…。自分の事として考えた時に、いかに大変なことかと思いました。しかし、どちらも地域に無くてはならない教会であり、たくさんの可能性を秘めている大切な主の教会です。自分の体力・知力など、心配事は色々ありましたが、主の御心と信じ、足りない所は主にゆだね、この招聘をお受けいたしました。

10/11(日)は、天候も守られ、各地から29名の方が集まり、原教区議長の司式のもと合同礼拝と就任式が祝福のうちに執り行われました。暖かく感謝に溢れる就任式となりました。本来であれば、皆様にご出席いただきたいところでしたが、コロナ禍のため道南地区各教会からも2名ずつと、最小限の集まりとさせていただきます。各地でお祈りいただいた皆様には感謝申し上げます。皆様の上に主の祝福がありますよう心よりお祈り致します。



真駒内教会の就任式：オンライン就任式の経緯と様子

杉本和道(真駒内教会 主任担任教師)

真駒内教会は、この春杉本和道牧師を迎えました。通常ならば就任式を5～6月頃に行うところですが、コロナ禍のため、「どのような形で行うべきか」教会内で、そして教区とも話し合いを重ねました。その中で、従来の教区全体からお客様をお招きして行うことは難しいとの判断に至りました。また、式の時間もコロナ禍を考慮し時間を少しでも短くするため主日礼拝内で執り行うこととしました。ただ、北海教区が大切にしてきた連帯を、この様な状況だからこそ大切にしたいとの思いが与えられました。そして、今回の就任式を通して完璧ではなくても新しい連帯の方法にチャレンジしたいとの思いが教会・教区の両者間で確認され、オンラインを用いた就任式となりました。9月27日に行われた式とその後の祝会も、お腹がいっぱいになる従来の和気藹々としたものではありませんでしたが、静かな中に主の導きと主へ共に連なる教会からの祈りを感じられる心が満たされる恵みの時となりました。お力添えをいただいた教区の皆さまをはじめ、お祈りいただいた全ての皆さまに感謝申し上げます。何より、真駒内教会を無牧師の期間も含め導き続けてくださる主に感謝いたします。

教会員の声

オンライン就任式を終えて

コロナ禍の為、今回初めての経験でしたが、教区内外の教会とオンライン中継で行うことが出来ました。最初はちゃんと繋がるだろうかと不安感がありましたが、教区幹事のご協力により遠隔地の教会や、出席が叶わない教会員と結ばれて執り行うことが出来ました。また、スクリーンに映し出された画面をお互いに見ながら、心が通った就任式が無事出来ました。特に印象に残っていますのは、杉本和道牧師の前任の各務原教会（岐阜県）とオンラインで結ばれ、牧師の家族全員が懐かしく、子供たちも興奮しながら交流が出来たことは大変良かったです。本来は対面が良いのですが、オンラインによる交流も今後時と場合によっては良いと思います。教区の計らいに感謝いたします。H・T



喜びの就任式を迎えて

待望の杉本和道牧師の就任式が9月27日執り行われました。この日を迎えるまでに、神さまは2度も札幌行きを止められ、また3度目に見えた時にはコロナ禍の試練がありました。そんな中でも杉本和道牧師は信徒一人一人にエールを発信して下さり、教会に連なる皆が励まされました。そして真駒内教会をささえてくださった代務の先生達のエールを受け取り、準備して下さったオンライン形式での礼拝には多くの教会の方が参加して下さり、杉本和道牧師を真駒内教会に送り出して下さった各務原教会の信徒の皆さまと真駒内教会の病床の友も会堂の皆さまも一緒に就任式の礼拝の恵みに預かることができ、また、沢山のお祝いメッセージに励まされました。そして、2年間の無牧の中を通されたことを希望にかえて、和道牧師とご家族と教会に連なる人たちと“今あるは神の恵み”の中を感謝し喜んで歩みたいです。K・N



就任式の朝、青空が広がり感謝！

やっとこの日を迎えることができたという安堵感と喜びが湧くなか真駒内教会に着いた。礼拝堂はオンライン中継のために機材が整えられ、参列して下さる教会の方々が映るのだと思うと、コロナ禍でも、教区の皆さまとのつながりを感じ嬉しさが増した。礼拝の中で就任式が執り行われ、杉本牧師とこれから共に歩むことを神様と誓約。多くの方々と触れ合う距離ではないのに連帯感に満たされたことは神様の業そして大きな恵であった。K・K

“幌延の40年” そこから見えてくるもの

「偽りの証言をするなかれ」

1989年ドイツの再処理工場は警官と市民3名の死者を出し、市民戦争の様相を呈して建設は中止されました。しかし「核廃棄物」は残ります。1991年製作のドイツ映画「第八の戒律」は原発から出る負の遺産である高レベル廃棄物問題をテーマにした記録映画です。教派によっても違いますが、モーセの十戒八番目の戒律「偽りの証言をするなかれ」に依ります。スクリーンはイギリス、フランスが放射能汚染水を何十年も海に垂れ流してきた現実と、その凄まじい被害、世界中の科学者や政治家、原発推進の企業家がついてきたあらゆる嘘を映し出します。彼らのやり方と言葉は国を超えてなぜこうも似ているのでしょうか？

2019年12月10日

鈴木直道北海道知事は幌延深地層研究センターの研究を延長する原子力機構の要請を受け入れました。「核を持ち込ませないという条例を反故(ほご)にして、幌延周辺地域がなし崩し的に高レベル放射性廃棄物の最終処分地にされるのではないか」「事実上の無期限延長ではないか」「日本中の原発のゴミが北海道に押し寄せてくるのではないか」という危機感は拭えません。北海道に押し寄せてくる原発のゴミを目前にして、40年に及ぶ幌延の「核廃棄物」をめぐる歴史を振り返り、私たちは未来のために何ができるのか考えてみたいと思います。

なぜ幌延に核廃棄物研究施設が来たのか

それは当時の幌延町長が誘致受け入れに手を挙げたことから始まります。今、誘致問題に揺れる寿都町、神恵内村と酷似しています。

幌延の名前は、アイヌの語のポロ・ヌプ(広い原野)に漢字を当てたとされています。「明治30年」(1897年)前後には幌延に和人の入植がはじまり自然豊かな大地は和人の搾取や圧政で姿を変えていきました。農業や林業、酪農は盛んになってきましたが、酪農の規模拡大による負債、公共事業がらみの土建業の悪化も進んでいきました。幌延町と「核」のかかわりは1980年代にさかのぼります。1982年、公害企業誘致に失敗した当時の佐野清幌延町長は「汚れ商売にこそウマミがある。原発のゴミはお金が入ってくる宝石プランだ。電源

平和部門委員 谷百合子(新発寒教会)

三法で交付金が出るから、これを原資に基金を作り酪農家の負債の利子補給を町がする」と「低レベル核廃棄物施設」の誘致を「バラ色の夢」の如く住民に説明しました。町長の強気の背景には地元出身の中川一郎科学技術庁長官の存在があったと考えられています。

しかし計画は青森県下北の立地が決まり1984年に頓挫します。その後、動力炉・核燃料開発事業団(動燃)は、誘致を諦めない幌延町長や原発のトイレづくりに焦る国の原子力行政と一体となり、北海道の酪農地帯に高レベルガラス固化体貯蔵プラントや深地層試験場などの6施設を建設するという「貯蔵工学センター」計画を打ち出します。1985年11月に動燃は抜き打ち的に現地に入り、機動隊に守られながら1987年までボーリング調査を続けました。しかし周辺の酪農家の反対や知事の反対もあり、動燃の立地調査は暗礁に乗り上げます。



幌延深地層研究センター

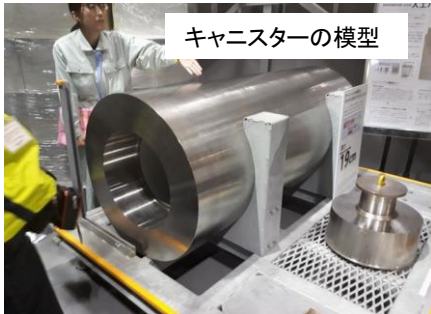
さまよえる高レベル放射性廃棄物

青森県六ヶ所村には日本原燃(株)が所有する世界最大と言われる核燃施設があります。「ウラン濃縮工場」「低レベル放射能廃棄物埋設センター」「高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター」「MOX燃料工場」「再処理工場」です。要となる「再処理工場」は原発から出た使用済みの核燃料(死の灰)の中からプルトニウムとウランを取りだし、ガラスと一緒に固め、キャニスターと呼ばれるステンレス容器に詰めます。これが高レベル廃棄物です。フランスとイギリスから再処理されて戻ってきた高レベル放射性廃棄物は六ヶ所村に一時的に保管されていますが、日本中のどこにも行き場がありま

(写真提供 地脇聖孝さん)

平和部門委員会

せん。今、北海道は「核のゴミ」のターゲットにされています。2020年7月29日、原子力規制委員会が再処理工場の適合許可を発表しましたが、運転のめどは立っていません。日本のプルトニウム保有量は47トンあり、原爆に換算して約6000発分に相当します。たった5kgのボール玉のプルトニウムで長崎は壊滅しまし



キャニスターの模型

た。泊3号機と大間原発は余剰プルトニウムとウランを混ぜたMOX燃料を使い、再利用という名目で世界からの非難をか

わそうという狙いがあります。日本の政治家の中には核武装を公言する者も少なくありません。核兵器禁止条約の批准すらしていない日本が原発を動かす資格はないのです。

全道を揺るがした反対運動

1990年7月20日の深夜、北海道議会は「貯蔵工学センター設置に反対する決議」を、自民党を除く全会派の賛成で可決しました。横路孝弘知事も泊原発は容認しましたが、誘致には反対の意向を示していました。

同年11月豊富町議会で、促進決議の中心になった議員2名のリコールが成立、勝利宣言に沸きかえりました。反対運動は多い時で1500人もの集会や、22万余の反対署名、酪農家のトラクターデモや、道庁での座り込みなど長い年月による闘いを続けてきました。しかし、道民の白紙撤回を求める純粋な思いとは裏腹に、知事選がらみの駆け引きなどに見られる、政争の具にされてきたことも否めないと思います。

核抜き条例のまやかし

2000年10月に共産党を除く全会派の賛成で「北海道における特定放射能性廃棄物に関する条例案」が可決されました。2000年11月北海道・幌延町・核燃機構の三者によるいわゆる核抜き協定が結ばれます。概要は、①放射性廃棄物は持ち込まない ②研究終了後、地下施設は埋め戻す ③将来とも廃棄物の最終処分地としないというものでした。

2001年2月堀知事の支持母体である連合北海道、民主党、公明党、道民社協会、道平和運動フォーラムの5団体が深地層研究所を「容認」。あくまでも白紙撤回を求める道北連絡協議会はその後も現地で反対集会をもちました。

「火山地帯、地震多発、地下水の国」 のどこにも地層処分場はない

鈴木知事は当初の研究期間「20年程度」を28年度末まで処分研究が続く計画に変えました。350メートル掘削が500メートルに変更されると、終了期間は大幅に延長される可能性が大了。核を持ち込ませない三者協定も条例変更の危険性があります。10万年も毒を出し続ける原発のゴミの処理を、嘘やごまかしで押し進めることは許されません。原発は立地建設から廃棄物処理に至るまで、民主主義に反します。



トンネル内部の漏水

「日本学術会議」の意見

2012年と2015年に「日本学術会議」は「核」のゴミに関して「まず原発をとめること。次に10万年もの長期間、地下埋蔵するには現在の科学技術では限界がある。50年間地上での保管隔離方法を採用すべきである。原子力を推進する側と自治体の首長だけで決定するのは間違っている。公正に議論すべき」と政府に提言

しています。原発行政は過疎いじめです。政府は、原発予算を湯水のように使い、過疎に苦しむ地方に札束を見せ、科学的根拠のないまま強引に計画を進めてきたのです。



錆び錆の浮きでた鉄筋

ドイツのクリスチャンに学ぶ

ドイツは福島事故から一転して脱原発の道を選択しました。ドイツ統一の翌年、私は再処理工場を止めたバックースドルフとゴアレーベンのクリスチャンにお会いしてきました。ナチズムの深い反省を踏まえて、平和運動と反原発運動は同じであることを力強く述べておられました。反対運動の拠点になったのは教会であったことにも感動しました。

神は「バベルの塔」を止められました。人間の使命とは何か、科学とは何か、行き場のない「核のゴミ」を前に、真剣に立ち向かう時が来ています。

(写真提供 地協聖孝さん)

平和部門委員会

すずえ えいら

鈴江英一さんと偲ぶ

うらべひろゆき
浦部浩行 (新発寒教会)

鈴江さんは今年 1 月に亡くなられました。80 歳でした。そのご生涯はキリスト者として、学者として、市民活動家として、大きな働きをされた人、神と人に仕えた人であったと思います。わたしは「靖国神社国営化阻止キリスト者グループ」で委員として、長年、鈴江さんとともに行動することが多かったので、哀惜の念は尽きません。鈴江さんは平和のため、人権のため様々な活動を倦まず弛まず続けてこられました。鈴江さんの得意とするところは、協力と連帯をつくることと文書を整理し、保存することです。鈴江さんは共同で仕事をするとき常に手帳を持ち、メモを取っていました。その正確さは比類のないものでした。わたしがいい加減な発言をしたり間違っただけを書いたりするとすかさず指摘し、直されました。安直にならないようにと諭されたこともありましたが、言葉には「寸鉄人をさす」鋭さがありましたが、難詰してやりこめるのではなく、受け止める寛容さがありました。鈴江さんは、先頭に立って旗を振るというより、見守り支える役割をされる人でした。わたしにとって、つねに尊敬おく能わざる人でした。

靖国神社国営化阻止北海道キリスト教連絡会という組織があります。1970 年に靖国神社法案阻止のためにつくられたもので、日本基督教団、日本キリスト教会、札幌キリスト教連合会、靖国神社国営化阻止キリスト者グループが幹事団体を務め、毎年 11 月 23 日に集会を開催しています。今年 2020 年の集会は第 51 回目になります。北海道キリスト者の靖国問題への取り組みの要の役割をしてきて、今も健在です。鈴江さんが中心となって編集、執筆された『「靖国問題」北海道の四十年—これからも共に』には、この連絡会の最初の活動の様子が次のように書かれています。(右)

+++++

鈴江さんは諸団体の協力と連帯のために尽くされた方でした。一例として、北海道宗教者懇談会の開催について触れておきます。この懇談会は 1982 年、当時の鈴木善幸首相が靖国神社への公式参拝をしないよう、全道 28 の宗教団体の代表者と 38 の地域組織、寺院、教会が要請したことに始まります。鈴木善幸首相あての要請文には次のように書かれています。(右)

この北海道宗教者懇談会の主催団体は、浄土真宗本願寺派北海道教区、真宗大谷派北海道教区、日本キリスト教会北海道中会、日本基督教団北海道教区です。2021 年 3 月には第 36 回目の懇談会が予定されています。毎年、講演、活動報告を行い協力と連帯を確認しています。



2018 年教職講座でのペーパーサート(平和部門第 1 グループ担当)題して、「天皇代替わり問題—これまでのこと、これからのこと」
鈴江さんは安倍晋三役

「靖国法案」の国会提出が迫っているなかで、キリスト教の諸教派は、抗議行動を教会内外に呼びかけます。…北光教会の壁に掲げられた「宗教を戦争に利用する靖国神社国営化反対」の大垂れ幕、ハンスト、座り込みを中心に、ピラを配り、署名とカンパを集め、道行く人たちにマイクで訴えました。この時札幌近郊はもとより、空知の深川市や美唄市、胆振の洞爺、釧路管内の江差町から駆けつけた人もおり、労組、政党、民主団体の応援、さらには日本山妙法寺のうちわ太鼓の激励、8 日間 180 時間の間に延べ 718 人が参加し、9097 筆の署名が集まりました。…手を尽くして抗議行動を終えたあと、6 月 30 日、法案が衆議院事務局に提出され、抗議行動は全国に広がります。…8 月 5 日、最初の靖国法案は審議未了のまま廃案となります。国会の議席を自由民主党が多数(486 議席中 57%277 議席)を占めているにもかかわらず、靖国法案がすぐに通るものでないことも学びました。

『「靖国問題」北海道の四十年—これからも共に』より

「…宗教法人靖国神社に天皇及び総理大臣以下を国の代表として公式参拝させようとする動きがあります。これは靖国神社に国教的地位を与え、国家神道の再現に道を開くものです。これによってわが国の政教分離の原則はくずれ、国民の信教の自由は著しく侵害されることになります。」

鈴木善幸首相あての要請文(1982 年)より



オンライン学習会 「コロナと外国人住民」



秋山千四郎 (琴似中央通教会)

2020年10月16日、標記学習会が開催されました(主催:北海道外キ連)。会場は、日本聖公会札幌キリスト教会、札幌司教区カトリックセンター、日本ルーテル教団北見ルーテル教会、日本基督教団旭川豊岡教会、日本福音ルーテル函館教会、以上5カ所を拠点として各会場から38名、オンラインで26名、計64名の参加でした。司会進行は清水和恵さん(新発寒教会)。

+++++++
+++++++

「講演1」では佐藤信行さん(『RAIK通信』編集長、外キ協事務局次長、移住者と連帯する全国ネットワーク理事)より、「『コロナ危機』でさらに排除される人々-移民・難民緊急支援基金から-」と題して、特別給付金から除外された外国人の置かれた状況について、また日本生まれの外国ルーツの子もたちの苦境についての仔細かつ具体的な報告がありました。そのような中で「新型コロナ 移民・難民緊急支援基金」が立ち上げられ、移民・難民1651人への支援が行われました。

「今回の支援・取り組みは、外国人住民に対して『あなたがたは見捨てられていない』とのメッセージを送ることだ」との氏の言葉は、とても印象に残りました。また「片側通行の慈善とははっきり異なり、相互扶助への参加者全員が与える側と受け取る



側の両方であることが、人々を團結させる。これは相互依存であり、互いの富を分け合うよう協力する人々のネットワークだ」とのレベッカ・ソルニットの言葉が紹介されました。

+++++++
+++++++

「講演2」では西千津さん(カトリック札幌教区難民移住移動者委員会)より、「北海道の留学生や技能実習生たちの状況」と題して、カリタス家庭支援センターと難民移住移動者委員会との協働で行われた支援活動の報告がありました。

その報告では、留学生また技能実習生、それぞれの給与や生活費、送金等の金額が具体的に示され、またコロナ前とコロナ後の比較もなされ、その置かれた窮状をより適切に知ることができました。

また、外国人労働力ありきの日本経済(技能実習生頼みの農業・漁業・



水産業、留学生によって支えられている観光業)の実態が示され、問題の解決はむしろ私たち自身の生活の見直しにあるとの指摘がなされました。



+++++++

以上の講演を伺って、問題の根は私たちの心がけ(意識)にあるのではなく、むしろ生活(経済)にあるとの印象を受けました。私たち「日本人」が享受し、また維持し続けようとしている生活(経済)が、様々な問題や抑圧や差別を生み出している元凶のように思いました。その意味で、西氏が指摘しておられた「私たち自身の生活の見直し」は、そのポイントを突くものでしょう。

また講演を伺いながら「教会は国家という車輪の下に轆かれた人々に包帯を巻くだけではなく、車輪そのものを止めねばならない(ボンヘッフアー)との言葉も思い出されました。目の前におられる傷付いた人々の手当をすることは当然のことです。しかしそれと共に、暴走する車そのものを止めることをしなければイタチごっこです。だからと言って、今の私に何ができるでしょう。そう考えると絶望的になりますが、それでも今の私にできることを以下に列挙します。

+++++++

- ・「隣り人」への窓口を開いておくこと。意識してこのような集会に出席すること。都合を付けて(仕事を片付けて)実際に足を運ぶこと。
- ・差別、疎外、抑圧されている(日本社会の構成員である私が差別、疎外、抑圧している)具体的な「一人」との出会いを求めること。相手がイエスの名において、ゆるしてくれることを信じて。
- ・「一人」との出会いを通して、こうした課題や問題を、「私の」ではなく、「あなたの」でもなく、「私たちの」課題・問題とすること。
- ・イエスによって教えられた我らの祈り、「主の祈り」を祈ること。「私たち」の父なる神の御心がこの地上世界に実現しますように、「私たち」の今日のパンを与えてください、と。
- ・ここから先は、今の私には、まだ分かりません。



「部落差別の新たな状況を捉える

～『部落差別解消推進法』成立の背景とその具体化に向けて～

2020年11月12日、「2020年度 部落差別問題学習会」がオンラインにて開催され、講師の赤井隆史さん（部落解放同盟 大阪府連合会 執行委員長）より、「部落差別の新たな状況を捉える ～『部落差別解消推進法』成立の背景とその具体化に向けて～」と題してお話を伺った。28名の参加者を得た。以下はその報告。

「部落差別解消推進法」が2016年12月に公布・施行された。確かに、この法律は一つの前進である。しかし残念ながら、罰則規定の無い理念法にとどまっているため、今この時も繰り返される部落差別に対する規制措置が法的に定められていない。また、差別により命や尊厳が傷つけられている人たちへの救済措置も不十分なままである。そのうえ、新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」）の拡大により、社会における「分断」「孤立」「疎外」はさらに大きなものとなっている。それが私たちの生きている日本社会である。

なぜ、差別を法律で禁止できないのだろうか？ 最大与党である自民党が2015年11月に開催した「人権フォーラム」では、当時の稲田朋美 自民党政調会長が次のような発言を行った。「裁判所で人権侵害を決めることは良いが、それ以外の機関を使って人権侵害のおそれに対して立ち入り調査を行うようになると、表現の自由や政治活動の自由が狭められてしまうというのが、我が党の考え方である」。つまり、自民党は、すでにEUや韓国などで制定されている「三権から独立した機関である、国内人権委員会を定めたくない」のである。国際人権規約や人種差別撤廃条約などの「国際人権諸条約が指摘する水準での人権保障を目指したくない」のである。

現在も、「表現の自由を守る」という名目で、差別が野放しにされている。例えば、インターネット空間では、差別はさらに加速する。「部落地名総鑑」というものがネット上で公開され、特定の地域が被差別部落であると公表される。しかし、当人の同意の無いところで差別意識と結びついて行われる「身元調査」は、差別される者を大きく傷つける。ネットが差別に利用されているのである。

部落差別の特徴として、「もし当人が黙っていれば外見や言語などからは、『その人が被差別部落出身である』ということとは分からない」という点がある。それ

報告者：韓守賢（平和部門委員）

ゆえ、多くの方は、相手の居住地が被差別部落であるかどうかによって、「その人が被差別部落出身であるかどうか」を判断する。実情は、いわゆる「被差別部落」に居住する構成員は時代と共に大きく変わっている、というのである。そうすると、当人が自ら行う「カミングアウト」ではない、当人が望まないところで行われる居住地や出身の暴露などは「アウティング」であり、まさしく差別となる。このことは2018年12月27日付「法務省通知」においても確認されている。

赤井隆史さんは語る。「インターネット上の差別を法的に取り締めるには、次の四つが必要である」、と。(1) 国による措置命令（削除命令）の権限をもった法的整備 (2) プロバイダの民事責任を免責し、法務省が削除要請するという対処法 (3) サイトブロッキングによる対処 (4) ネット事業者に対する努力義務を関係法令に明記させること。

さらに、赤井さんは語る。「若い人に期待したい」「なぜなら、若い人は、それ以前の世代に比べて、性的少数者や在日コリアンなどの多様な出合いを日常生活の中で経験しているから」。また、近年の学校教育では、若い人たちは「土農工商の下に、政治権力者によって、えた・ひにんが作られた」とは習わないそうである。むしろ、「長い年月に渡って、除け者（よけもの）扱いされていた人たち」という考え方に変わってきているようだ。つまり、差別は突然、現れるものではない。スポンジに水が染み込んでいくように、少しずつ時間をかけて人々の意識に染み込んでいった結果、部落差別が固定化されていったのだろう。

そのうえで、赤井さんは問いかける。「私たちは、どんな社会、世界を目指して生きていくのか？」「差別を放置するのか？ 差別に対処するのか？」

私は差別されることも、差別することも拒否する。差別に負けてはならない。そのためには、「なぜ、このような社会なのか？」 社会の構造や歴史をもっと理解したいと願う。同時に、自らの内に在る差別性を見つめ続けなければならない。決して差別が無くならない社会であったとしても、差別を当然のものとししない生き方を目指したい。そのためにこそ、神を信じる。

ラポロアイヌネイション

サケ捕獲権確認訴訟始まる

先住権の闘い

二〇二〇年八月十七日、北海道浦幌町のアイヌ民族グループ「ラポロアイヌネイション」（旧浦幌アイヌ協会）が、祖先がサケを捕獲していた川でのサケ漁は先住民族の権利だとし、国と道を相手に漁業権を認めよう札幌地裁に提訴しました。

ラポロアイヌネイションは、浦幌町内に居住・就業するアイヌで構成されているアイヌ民族集団であり、現在の構成員のほとんどは浦幌町を流れる浦幌十勝川の左岸沿いおよびその周辺に存在していた複数のコタン（アイヌ集団）の構成員の子孫です。明治になるまで浦幌地域を支配領域（イオル）とし、サケをはじめとする自然資源を独占的・排他的に使用し、利用していました。このうちサケはアイヌにとって主要な食料であると共に、和人も利用されており、重要な経済活動の交易品として



北大教授が1934年に盗掘した副葬品の中にあつた網を修理する道具（網針）。古くからアイヌは網漁をしていたことの証拠品。

の資源でもありました。

明治六年に明治政府は現札幌市の主要な河川におけるサケの引き網漁を禁止し、明治十一年に札幌郡におけるサケマス漁を一切禁止しました。その後、サケマス捕獲の禁止が全道に広がり、明治三十年には、自家用としてのサケマスの捕獲も禁止しました。アイヌに関する唯一の例外は文化的伝承等のために北海道知事の許可を受けて一定数のサケの捕獲が認められているにすぎません。しかし、明治以降の日本政府によるアイヌ諸集団のサケ漁を禁止する法的理由は現在に至っても全く明らかになつ

なつておらず、かえって違法と考えられています。

訴状では原告ラポロアイヌネイションが十勝川河口地域でのサケ漁を行う権限を現在においても有していると主張し、認めることにより、同地域のアイヌが経済的自立のために極めて重要だと付け加えます。その後、より詳細な文献証拠を挙げつつ、結論として、原告ラポロアイヌネイションは浦幌十勝川河口から四キロメートルまでの範囲における刺し網を使用したサケ捕獲権を有し、被告はこの原告のサケ捕獲権を禁止し、制限することはできないことの確認を求めています。

日本において初の先住民族アイヌの権利としての闘いが始まりました。わたしたちは応援と共に、今後も諸情報を皆さまにおたえして行きます。

三浦忠雄

（アイヌ民族情報センター主事）

センターの活動を支えて下さい！！ 目標150万円

アイヌ民族情報センターは、遺骨返還の協力やアイヌ民族の権利回復のために幅広い活動を行っています。活動資金が大変、不足しております。どうぞ、お祈りとお支えをお願いいたします。



ハラスメント防止委員会 尊厳の回復をもとめて!

～旧優生保護法国家賠償裁判の判決はもうすぐ、お祈りください～

清水 和恵

(ハラスメント防止委員長、新発寒教会牧師)

クリスマスの平和を祈ります。

2018年に小島喜久夫さん、道央のご夫妻（氏名非公表）が旧優生保護法のもとで不妊手術を強制されたことに対して、国に損害賠償を求め裁判を起こしました。ハラスメント防止委員会は、同意なしに不妊手術を強制された被害者の尊厳の回復と真の被害者救済判決を求めていきたいと願い支援してまいりました。

北海道では「不幸な子どもを産まない運動」として官民あげて取り組まれ、約2,600件の強制不妊手術が行われました。これは全国一の件数（全国総計の1/5）です。優生思想のもとに被害を受けた方はおもに障がい者でした。原告は国によって、人間としての尊厳が奪われたことに苦しむ日々を送られました。

* * *

いったい神の創られた命に優劣があるのでしょうか。わたしたちは聖書から「否」というメッセージを聴き取ります。神の創造されたものはすべてよかったです（創世記1:31）。しかし、それとは真反対のことが日本では行われ、国家による取返しのつかない人権侵害と性加害（性暴力）、ハラスメントが北海道では全国一の規模で行われたのです。

また、このクリスマスの季節、ヘロデ王による男児虐殺の物語（マタイ2:16～18）に耳を傾けたいと思うのです。ヘロデは「ユダヤ人の王」の誕生に脅え、2歳以下の男子を抹殺したと聖

書は告げます。これが史実であったかどうかは定かではありません。しかしたとえ創作であっても、ヘロデの場合、自らの権力を脅かす者であれば家族をも殺したという歴史的事実を見るとき、フィクションとは思えない真実味のある物語としてわたしたちに迫ってきます。この物語には、支配者、権力者によって無残にも殺されていった子どもたちや母や父の叫び、嘆きが響いています。

なぜこのような記事が聖書に記されているのでしょうか。それは、誰の命であろうとそれを奪う暴力を神はゆるさないこと、また命と尊厳を暴力的に奪われた人々の悲しみと抵抗の思いを聖書記者は記しておきたかったのではないのでしょうか。イエスの示したことは、神の平和と正義、非人間化された人の尊厳の回復です。

もし、イエスなら、この旧優生保護法のもとに行われた人権侵害に対して、どのような行動を起こされたでしょうか。

* * *

原告の小島喜久夫さんの結審は9月25日、道央のご夫妻は10月29日にありました。判決は来年の1月15日、2月4日にそれぞれ言い渡されます。真の被害者救済判決がなされるよう願ってやみません。第1次署名は28,208筆集まりました。さらに第2次署名に協力いただきました教会の皆様にも、感謝いたします。引き続きご支援をお願いいたします。



教会におけるハラスメントに悩む人のために

北海教区ハラスメント電話相談 011-757-6282

毎月第3金曜日 午前11時～午後11時 左記の日時以外はつながりません。



こんにちは!

性差別問題担当委員会です

エッセイ

「大坂なおみさん 7枚のマスクのからの メッセージ」

つじなかあきこ
辻中明子 (性差別問題担当委員)



大坂なおみさんのニュースを聞いていると思います。プロテニスプレーヤーとしての活躍も素晴らしく、今年9月の世界四大大会の全米オープン戦で優勝を果たしました。さらに、この大会の1回戦から、アメリカで人種差別の結果、痛ましくも命を奪われた犠牲者の名前を印刷したマスクをしてコート内に入りました。2回戦、3回戦と勝ち進み、最後の決勝までの7試合まで順番に7名の犠牲になった方の名前が記された黒いマスクをしてコートに入りました。7戦全勝した結果も素晴らしいのですが、その勇気ある行動に励まされ、強い意志に心が打たれました。

お父さんはカリブ海にある国ハイチの出身、お母さんは日本人で根室の出身ということで道内でも話題になりました。大坂さんは3歳の時に日本からアメリカに移住されますが、お父さんからハイチの歴史を学び、自ずとマイノリティーや差別について関心を寄せていたそうです。そして、子どもの頃から、黒人がいわれなき暴力や差別を受けている事件を目の当たりにする度に、本当に怖い思いをしていたと語っています。ハツとさせられました。当然なのですが、ずっと当事者の感覚の中で暮らしていたのです。

彼女は、私はテニスプレーヤーの前に一人の人間ですと語ります。大変印象深く心に残ったのは、優勝を決めた後、インタビューする記者に対しての彼女の発言です。「私が何を語るかと、あなたは気にしていますが、あなたがこの7枚のマスクから、どのようなメッセージを受け止めたかの方が大切です。

(どうですか?)」と問い返していることです。まるで、イエスがヨハネ福音書8:7で「あなたたちの中で罪を犯した事のない者が、まず、この女に石を投げなさい」と答えた場面と重なります。野次馬的な関心しか持っていない大勢の群衆が、命の危険にさらされている一人の女性を前にして他人事として眺めている時に語られた言葉です。イエスの言葉によって、他人事ではなく逆に自分自身が問われる側に立たされ、自らを知っていくという聖書の場面です。あなたは、どう思いますか?とイエスは私に問う方です。

大坂さんから、人権問題や人種差別の意識が低い日本でもっと議論してほしい、もっと知ってほしいという願いが込められていると感じました。まだ、気がつかないのですか? 自分自身であること、アイデンティティー(人種・性別・容姿・家族など)は本人の意思や選択ではなく、命と共に神さまから与えられて生きている私たちです。否定されてはならないものです。通常あまり気にしていないように思いますが、実はいつも自分自身であることと闘ったり、否定されていることに痛んでいる自分でもあるのです。誰もが、自分自身であることが否定されない社会になりますように、7枚のマスクからのメッセージを大切にしたいと思います。



★キャラバンであなたの地域を訪問します!

★献金のお願い 2020年度献金目標 30万

 Facebook
やっています。
当委員会のページを
ぜひご覧下さい。



ベルリンの「平和の少女像」が、座り続けるために。

清水和恵(プロジェクトチーム長、新発寒教会牧師)

ベルリン市ミッテ区に韓国系市民団体が日本軍「慰安婦」を象徴する「平和の少女像」を設置したことについて、フォン・ダッセル区長はいったん撤去を命じましたが、ドイツ、韓国をはじめ世界中から撤去命令を撤回する要請と抗議の声があがり、ミッテ区は当面、容認の判断を示しました。北海教区日本軍「慰安婦」問題の解決をめざすプロジェクトチームもその抗議の声に連なりました。また、個人で賛同された方もおられます。

その後、ミッテ区議会は11月5日、撤去を撤回する決議案を可決しました。世界中からの抗議のアクションが功を奏し、あきらめずに声をあげ続けることで状況は変わったのです。平和と正義を願う世界の人々の声、その中にわたしたちの声も入ることが大事ではないでしょうか。そもそも平和の少女像は、加害の歴史を記憶するため、性暴力の再発を防ぐために創られました。

ところが、東京都新宿区、名古屋市、東大阪市は撤去要請の書簡を送っています。日本政府は、引き続き撤去を求めていくでしょう。なさけないですね。今後の動きを注視しながら、あきらめずに声をあげることが未来を拓く責任であると思うのです。

吉元玉(キル・ウォルノク)ハルモニのCDを販売します。1枚2,200円

タイトル「平和」 アリラン、トラジなど朝鮮の民謡や大衆歌謡をハルモニがしつとりと歌いあげます。

2019年の2月、教区青年韓国スタディーツアーで、90歳になる元日本軍「慰安婦」被害者である吉元玉ハルモニをお訪ねしました。ハルモニはわたしたちをやさしく、温かく迎えてくださりお得意の歌を歌ってくださいました。心にしみわたる歌でした。そのハルモニの歌声が、CDになりました。CDご希望の方は、新発寒教会・清水までお知らせください。(電話ファクス011-681-8217、メールkajjykazu@gmail.com)

ナビ基金のお願い

ナビ基金とは、戦時性暴力被害女性、性搾取被害女性を支援する基金です。韓国の日本軍「慰安婦」被害者の故金福童(キム・ボクトン)、吉元玉(キル・ウォルノク)ハルモニによって創設されました。この基金には、平和な世界をつくるためのハルモニの祈りがこめられています。皆さまのご支援をお願いいたします。

募金期間：2020年3月～12月

郵便振替(青色の払込票をお使いください)

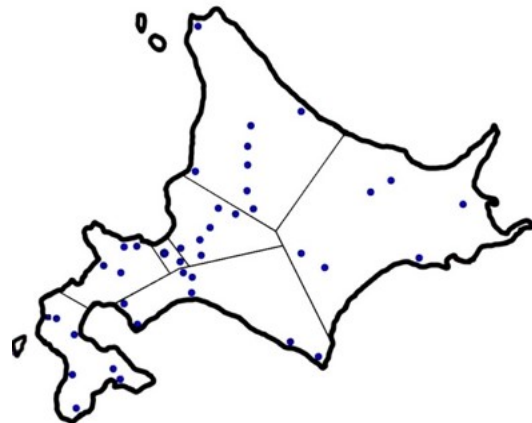
口座番号：02730-7-8339

加入者名：日本基督教団北海教区会計

- ・通信欄に「ナビ基金」と明記し、他の募金と合わせるのはご遠慮ください。
- ・領収書が必要な場合は、領収書必要とお書きください。
- ・ご依頼人の欄に、個人名の他、教会名、団体名も明記ください。



北海教区 各地区の働き



道北地区 興部伝道所 伊藤 大道

道北地区は、教区や他地区と同様、新型コロナウイルス感染症の影響により、活動が制限されました。その中で取り組んだことを、特集記事として投稿いたしましたので、そちらの記事をご覧ください。

道東地区 帯広教会 井田 博康

道東地区は当初、新型コロナウイルスにより、活動を凍結する判断をいたしました。しかし地区における連帯のために、少しでも活動の一步を踏み出そうとする思いがありました。そうした地区内の思いを踏まえて、中止しようとしていた地区総会を書面表決で開催する運びとなりました。現在その準備のために地区委員が何とか連絡を取り合っている最中（11月6日現在）。

道東地区はとにかく地理的に共に集まることが困難な状況（通常は集会の際、各教会の中間地点にある阿寒湖に集まっていますが、移動のためにどの教会からも2時間以上かかります）、また教師・信徒の健康状態を懸念している教会もあり、教師会やその他集会が困難な中、何とかして地区の連帯のための具体的な働きを紡ぎだそうとしています。集会は困難であったとしても、オンラインで、または書面でできる可能性について様々なご意見がありました。その手掛かりとして、オンラインのための技術的な問題を克服するこ

とができれば、次へとつながる一步になると思われます。もちろん、電話やファックスによる情報の共有も選択肢の一つとなるでしょう。

このように制約が厳しい中、改めて主における交わりとは何かという本質的な問いを迫られていることを感じています。今後は手探りではありますが、主における交わりの中で本当に必要なものは何か、その答えを見いだすことができるのではないかと願わずにられません。

他の地区も、前例がない中でいろいろと試行錯誤している状況を強られる中、新たな可能性を見出そうとされている地区もあります。道東地区もゆっくりではありますが、少しずつでも主における交わりの可能性を見出していきたいと思っています。神様に祈る中で、主の御心が道東地区においてできることは何か、教師・信徒共に分かち合い、考えていきたいと願っています。また、地区に連なる一人ひとりの健康に留意する必要があることは言うまでもありません。

道東地区の働きを主に委ね、必ずや主が良き方向へとお導きくださることを願っています。すべてのことが益となることを信じたいと思います。道東地区の働きのために皆様お祈りくだされば幸いです。

石狩空知地区 美唄教会 本村 拓己

5月に延期した地区総会以降は2021年2月の地区委員会まで顔を合わす機会のない石狩空知地区です（211号参照）。しかし、6教会・伝道所の距離が互いに近い地区であることから、2ヶ月に1度の牧師会は対面で

通常通り開催しています。

そこでは会場教会の牧師から発題をしてもらい、その後は各教会・伝道所の現況を聞き合います。新型コロナウイルス感染予防の観点から講じる対策などを中心に、教会に連なる方々のことをも覚え合っています。

今年度は2回の臨時地区委員長会議ならびに定例地区委員長会議で決められたこと、また宣教協議会参加についても話し合いました。インターネット環境に関する課題を受けて、どこかの教会に集まって共に参加する可能性もあがっていました。

どの教会・伝道所にも固有の事情や課題があります。それまで内在していた、傾向を有していた事柄（特に教会財政において）、コロナ禍に拍車がかかっていることを思われます。

翻って、礼拝も礼拝後の交わりも縮小または開催できない昨今、それまで教会で過ごしてきた時間をみなさんはどのように過ごしておられるのでしょうか。ともすれば、身の回りのことに終始してしまう私たちだからこそ、また社会的距離を保たなければならない状況だからこそ、意識的に外へと目と心を配りたいものです。みんながどの方向へ歩もうとしているのか、どんな地区や教区であってほしいのか。それらをつくりあげるために働いておられる方々の歩みが守られるよう祈ります。

札幌地区 札幌北光教会 指方 信平

11月21日（土）には第1回目の宣教協議会が開催されます（執筆時点）。各地区が聞き合い、そこで気づかされ、新たな一步の原動力となることを願っています。

9月27日に真駒内教会牧師就任式が主日礼拝の中で執り行われ、杉本和道牧師が就任されました。教区として初の試みであったオンラインの併用によって、前任地の教会の方々や北海教区諸教会の方々から画面を通じて共に祝福を祈ることができました。

札幌富丘伝道所は7月24日に閉所式が行われ、



29年間の歴史に区切りがつけられました。それは手稲はこぶね教会と合同し、新教会を設立するという大きなビジョンに向けての出発を意味します。既に礼拝はコロナ対策に苦慮しながらも共に守られ、新教会の具体的な計画が話し合われています。また新たな土地での会堂建築も（2021年10月完成予定）進行中です。

月寒教会は、幼稚園の認定こども園移行に伴い新会堂・園舎建築が決議され、2021年6月下旬の完成（幼稚園は7月1日開園）に向けて工事の真っ最中です。毎主日の礼拝は、午後十二使徒教会の礼拝堂にて守られています。麻生教会も、幼稚園の認定こども園化移行とこれに伴う会堂建築の可能性が検討されています。また札幌教会は米倉美佐男牧師が9月末で辞任され（3月末まで代務者）、後任牧師招聘に向けて歩んでいます。それぞれの新たな歩みを祈りにお覚え下さい。

札幌圏において顕著な新型コロナウイルス感染は、各教会・伝道所、北海道クリスチャンセンターの活動と財政に影響を与えています。10月中旬に開催された地区委員会でそれぞれの状況を報告しましたが、礼拝出席者数が回復傾向とはいえ、なお6～7割に留まっている教会、三密回避・手指消毒・短縮のほかにも讃美歌や詩編交読の発声を控えたり、聖餐の見送り、礼拝の分散など対応を続けて



いる教会など、それぞれ苦慮している様子を覚え合いました。

12月24日のクリスマス・イヴ礼拝はほとんどの教会が見送る方向のようですが、このような時だからこそなんらかの方法で降誕の希望と慰めを伝えられたらと願います。10月下旬の「第三波か？」と危惧される増加傾向の中、地区として集まったの活動は引き続き控えなければならない状況で、木曜礼拝、地区CS活動、新年礼拝（1月1日）、社会問題学習会の中止は止むを得ません。

後志地区

余市教会
西岡 知洋

新年礼拝についてはオンラインで開催する地区があれば連携を模索します。予定していた地区活動を行えない中、10月中旬発行の「地区だより」にて各教会・伝道所・センターの今を報告しあう特集を設け、困難な互いの状況を覚え合いました。

10月6日(火)に4月以来の顔を合わせての地区委員会を開催しました。

8月に小樽聖十字教会が「日本基督教団との被包括関係の廃止」を臨時教会総会にて決議したことを受け情報を共有しました。とても残念ではありますが、同じ地域にある教会として祈りつつその歩みを見守りたいと思います。

各教会で新型コロナウイルス感染症への対応を重ねて礼拝を続けています。

手宮教会は9月20日より平宏史牧師（岩内）を代務者として歩みを始めました。これからの教会の歩みが祝されますようにお祈りください。また、これまで代務者として小西陽祐教区幹事とその働きを担ってくださったことを感謝いたします。

地区として大切にしてきた「講壇交換」と「信徒大会」を今年度は行うことができませんでした。けれども、道北地区でのオンライン合同礼拝の姿が励みとなり、信徒大会や地区委員会をオンラインで開催できないだろうかと、前向きな気持ちを地区委員会として抱くことができました。

2021年2月6日(土)に倶知安伝道所の雪下ろしが計画されていますが、新型コロナウイルスの状況を見て皆さんに呼び掛けるか、業者に委託するかを判断するそうです。

北星余市高校はコロナ禍にあって配慮を重ねながら北星祭（学校祭）を行うことができました（10月3日～4日）。一方で修学旅行は次年度に延期など影響も大きいです。次年度への募集が始まっています。寮や下宿が少なくなってきたり課題となっています。どうぞ仲間たちの北星での生活が充実した日々となるように、また宗教主任である塩見耕一先生の健康が守られますようにお祈りをお願いいたします。

苫小牧地区

洞爺湖教会
村上 由紀

コロナ禍にあってさまざまな交流が妨げられ、縮小されていますが、苫小牧地区ではこの秋、その流れに逆らうようなことが2つありました。

1つは、シュマ・オマ・プ（島音祭^o）の開催。2016年から毎年開催してきた「音楽をとおして、出会いとつながりを創っていく」ことを目的とした音楽祭です。実行委員会では、開催を躊躇する声もありましたが、「やめることはいつでもできる。やれるところまで準備を進めてみよう！」という思いで一致し、実際に開催に漕ぎ着けることができたことには、信じられない思いもあります。コロナ感染拡大の防止と交流活動の両立のためには、ソーシャルディスタンスの確保が必須。そこで、文

道南地区

利別教会

石橋 隆広

化庁や恵庭市の文化芸術活動への補助金を申請し、恵庭市民会館の大ホール使用を可能にするなど、思いつく限り、できる限りの手段を総動員し、細心の注意を払っての開催となりましたが、そこにはいつもと変わらぬ温かな出会いとつながりがありました。

もう1つは、洞爺湖教会への礼拝応援です。佐藤待子牧師が緊急入院され、洞爺湖教会では、9月27日と10月4日が分かち合いによる信徒自主礼拝となりました。退院の見通しがまだ立たない状況だったので、「何はともあれ地区に相談！」と地区委員長に事情を説明したところ、二つ返事で「今月中の礼拝応援を調整してみます」と言ってくださり、千歳栄光教会、苫小牧弥生教会、室蘭知利別教会からそれぞれメッセージ担当者を送ってもらうことができました。



地区を9つ目の教会と呼ぶ苫小牧地区では、「困った」と声を上げたとき、「他教会のために」ではなく「自分の教会のこと」として自然に受け止め、どうしたらいいかを考えるという過程から共に歩んでくれます。今回も牧師の緊急入院という出来事に寄り添い、洞爺湖教会がその時に一番必要としていたことをすぐに察知して動いてもらえたので、不安を抱え込んだり、無理して頑張り過ぎることなく、安心して過ごすことができました。

人と人の距離感が難しいこのご時世に、人が集まる場を作ること、人を動かして交わる機会を作ることには、大きな不安と責任がつきまといます。みんなで考え、みんなで決めること。それは責任の所在をあやふやにすることではなく、「みんな」を構成する一人一人が、覚悟を持ってお互いの不安に寄り添い、知恵を出し合って道を切り開いていくことなのだと思われ改めて気づかされました。

道南地区では、新型コロナウイルスの影響により、毎年の行事は、中止いたしました。

7月21日（火）には、2020年度第1回道南地区常任委員会がオンラインにてもたれました。

各教会・伝道所の状況は、所在地の市町の感染状況に合わせ、それぞれが判断し、継続的に礼拝を進めたところ、一定期間礼拝を休止し、再開したところがあります。

また、道南地区規約改正、道南地区宣教協力資金運用規約改正の議案内容が決議されました。それにより、まず、名所が「常任委員会」から「地区委員会」に変わりました。構成メンバーも、常任委員が教師の他に、地区総会議員の内より選挙により選出されていたところから、各教会、伝道所より教師1名、信徒1名となりました。また、地区宣教協力資金については、要請される教会、いあいがかえ伝道所が増えることを考慮し、算出方法も改められました。

11月10日（火）には、地区委員会がオンラインにてもたれます。各委員会の役割を決め、来年度に向け活動を考えていきます。

10月11日には、石橋香代子牧師の渡島福島教会、江差伝道所の就任式が江差伝道所にて行われました。合同礼拝と合同就任式を合わせ、教区議長の原和人牧師が司式を執り行いました。また、北海教区から教区書記の齋藤開牧師、教区幹事の小西陽祐牧師、ディバン・スクルマン宣教師が出席されました。そして、道南地区、遺愛学園の教師、信徒を合わせ30名が集まり、祝福の時となりました。





Divan のミホミサン

ミホミサンは、ブヌン語で平安と感謝を意味する言葉です。

札幌からこんにちは！

台湾基督長老教会宣教師 **ディヴァン・スクルマン**

今や新型コロナ・ウイルス感染は、世界中に蔓延しています。まさかこんなことになるなんて、誰が予測できたでしょうか。私たちが不安と恐怖に襲われています。それは、私たち人間に襲いかかってくる目に見えない敵です。

旧約聖書詩編 91 篇には、あらゆる場面の心配は様々に重なって、その人生全般における危機というのは、3 節～7 節までに記されています。「仕掛けられた罠」、「死に至る疫病。」「昼に飛び来る矢」、「闇に忍び寄る疫病」、「真昼に襲う病魔」、それによって 7 節に「千人があなたの傍らに倒れ」、「万人があなたの右に倒れる」という事態が、人生の中で起こるといふこと。

しかし詩編の作者は、必ずしも歴史的に起こった特定の出来事を指しているのではないと思います。要するに、このような危機は私たちの日常に何時もある、という事実を語りたいたらうと思います。神さまは、どんな大天災の中でも、一人一人のいのちに関心を持っておられます。

新型コロナ・ウイルスの影響のため、私たちの生活習慣や計画したことが変わってしまいました。過去にはない考え方と実践は、今は私たちの人生の一部として内面化されています。

家は最も大事な場所です。

例えば、新しい生活と言われますが、家は最も大事な場所です。以前、家でのおんびりしていて、時間があるときはインターネットで次の旅行の計画を探していました。しかし最近では、混雑した場所に長くいると、家に逃げ帰りたくなるでしょう。家に帰ると、マスクを外して、手洗い、うがいをしています。なるべく外のものを家の中に運ばないで気をつけています。家の中には、安心感



白老町の民族共生象徴空間
ウポポイに行きました。



中布中会宣教70周年記念礼拝

を得て、隔ての壁はない、嫌なものを洗い流します。神さまから私たちに与えられた家庭の祝福は「親密、信頼、許す、分かち合い」の場ですね。

価値観も変わりつつあります。

突然、多くの場所に行けなくなりますが、代わりに、心は自由になります。突然、多くのレストランが閉まり、家で美味しい食事を食べています。突然、マスクを外して大きく深呼吸をすることができて、なんと嬉しいことでしょうか。全てのことは神様からの贈り物を感じていませんか。

友だちの関係も変わります。

良い友だちは病気の時に病院に来てくれる人だと思っていました。しかし、今、病院は患者をお見舞いすることを許可されていません。

良い友だちはあなたにお金を貸してくれる人だと思っていました。しかし、ちょっと前では、良い友達とは、あなたにマスクを貸してくれる人のことになりました。

良い友だちは、あなたが新型コロナウイルスの病気にかかっている場合でも、あなたの側にいてくださり、あなたの涙を拭いてくださる。そのような友だちがいるのでしょうか。

実は、います。その友だちこそ、イエスと言います。彼が私たちの良い友だちです。イエスの降誕が近づいてきます。世の中には様々な苦難があってもイエスの降誕をとして平安と希望を与えることができますよにお祈りいたします。

お楽しみ！クロスワードパズル

クロスを解いて、A～Eを順に並べると、こたえ

A	B	C	D	E
---	---	---	---	---

1	2		3		4	D	5
6	A		7			8	
					10		
11	12			E			
	14						
15			16		17		C
17		B				18	

今年は新型コロナで大変だったね。お子さんたちは、お母さんやお父さんに聞いてね。今年も西東京教区と兵庫教区からもご参加いただきました！ メリークリスマス！



たてのカギ

- 歌舞伎など新メンバーでのお披露目興行
- カギのこと ○○ホルダー マスター○○
- 身体障がい者のオリンピック
- 百聞は○○○○に如かず
- 洗練されていないこと 粋じゃないこと
- ヘミングウェイ作「○○○○と海」
- かき乱して騒ぎを起こすさま
- 日本では一番少額の硬貨
- 品物やサービスに対して金銭を払い渡すこと
- 目的の達成に頼りに出来そうなコネなど
- 自動○○ 回転○○ どこでも○○

よこのカギ

- Rのつかない月には食べない方がいい貝
- お父さんが苦手な果物(?)
- 北極圏などに見られる大気の発光現象
- マッサージに効果のある経穴
- いわゆる信用取引とかツケ払いとか
- 知識や徳の優れた、高潔で理想的な人物
- よこ11とは逆の、遠藤憲一や寺島進の役柄
- 転ばぬ先の○○
- ロシアやアラスカにある永久凍土の荒野
- 神様から永遠の祝福を受ける場所
- は真心、恋は下心

こたえをハガキか FAX でお送り下さい。2021年1月15日(月)消印有効

抽選で以下の賞品が当たります。当選者発表ですが、今年度は年頭修養会が開催されないため、発送をもって代えさせていただきます。各教会へのメールFAXまたは213号(2021年夏)にて当選者一覧を掲載予定です。お会いできない日々が続きますが、こんな時だからこそ、互いに覚え合う機会になればと思います。賞品提供いただいた方々の歩みもぜひお覚えください。

西東京教区賞：「聖書おもしろ図鑑旧約編」 3名

兵庫教区賞：「開けてからの楽しみ」 1名

A賞：愛媛県いよかん10kg(提供：北海道キリスト教書店) 1名

B賞：手作りマグカップ(名寄教会日向恭司牧師作、提供：北海教区事務所) 4名

C賞：図書カード2,000円分(提供：北海道クリスチャンセンター) 3名様

D賞：旭豆<三浦綾子記念文学館オリジナル箱>(提供：三浦綾子記念文学館) 10名

E賞：オリジナルポストカードとタオルハンカチ(提供：ホレンコ) 3名

〒060-0807 札幌市北区北7条西6丁目 日本キリスト教団北海教区事務所 FAX：011-757-6271



ご承知のように、ここ数ヶ月だけでも様々な闇のような出来事が起こりました。

9月16日に誕生した新政権の初仕事は、学術会議会員6名を推薦名簿から消し去ると言う闇が。一方、11月7日の新米大統領の当確に、民主主義は生きていたと言う光を感じました。そして、世界的なコロナ禍の深い闇が。GO TOキャンペーンによる急激な感染者、死者増加の闇。そして、改憲の準備を進めようとしている闇が続いています。

しかし、コロナ禍がもたらしたテレワーク時代への大きな流れが、その闇を突き抜け、ある種の光をもたらすのでしょうか。

そして、その中で教区通信の働きが、5Gの時代に向け、新たな絆が生まれるのかも知れません。多分、コロナ感染が終息しても、オンラインは無くならないでしょう。

クリスマスは、闇の中に光が差し込んだ出来事だと言われます。私たちの成そうとしている事を主が光に変えて、その道を開いてくださいますようにと祈ります。

(Maruyama)

(北海教区公式サイト)

(広報委員会メール)



広報委員

- 木村 拓己 (美唄教会・委員長)
- 倉本 真理 (札幌富丘伝道所・書記)
- 亀岡 徹 (島松伝道所・会計)
- 高橋 雅之 (札幌北光教会)
- 日向 恭司 (名寄教会)
- 下村 晃司 (琴似中央通教会)
- 丸山 澄夫 (西札幌伝道所)

まんが

- 塩谷 真澄 (洞爺湖教会)

表紙の絵

- 枝元 威郎 (十二使徒教会)

北海教区通信をお読みになっの、ご意見ご感想などをお寄せください。

koho-edit@hokkai-net.jp

(北海教区広報委員会メール)

北海教区公式サイト

<http://www.hokkai-net.jp>

● 編集・発行 ●

キリスト
日本基督教団 北海教区

〒060-0807 札幌市北区北7条西6丁目
北海道クリスチャンセンター3F

E-mail: kanji@hokkai-net.jp

ホームページ: <http://www.hokkai-net.jp/>